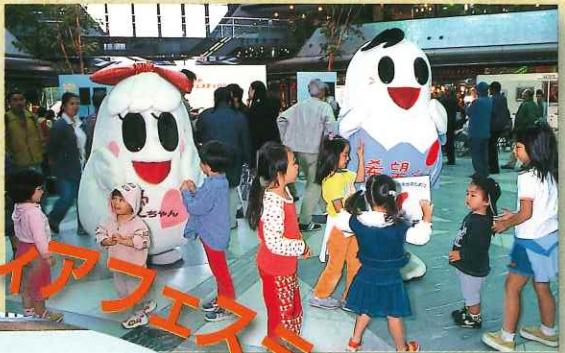


ボランティア OSAKA



第10回
おおさかボランティアフェスティバル



第27号

2002
WINTER

●発行●

(福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・市民活動センター

特集

サラリーマン(勤労者)
の
ボランティアは今…

●市町村ボラ連「Vサイン」No.16



第10回

おおさかボランティアフェスティバル



中でも、自身、車椅子バスケットチームを率いる桑名正博さんのトーク＆ライブや、月桃の花歌舞団の、沖縄の風を感じさせるエキサイティングなステージではいつも最高潮。吹き抜けの階段に人がめづれ観客席を立つて一緒に踊りだす人も。ステージの周囲では、インスタンントシアの体験コーナーや国際交流コーナー、手作り体験コーナーなどが設けられ、お茶席コーナーでは、野点を楽しむ人たちの姿も数多く見られました。また屋外では、お汁粉や焼きそばの店も出て、今回のフェスティバルも盛況のうちにクライマックスへ。最後は全員で「明日がある」を大合唱しさらなるボランティア活動の活性化を誓いました。

「国を越えて 世代を超えて 広がれボランティアの輪」をテーマに、昨年10月21日、OBPのツイン21ギャラリーにおいて第10回おおさかボランティアフェスティバルが開催されました。21世紀の幕開けとなつた昨年はボランティア国際年。その締めくくりとも言える今回のボランティアは、大阪市第3回ボランティア・市民活動フェスティバルと同日開催。二つの会場を結ぶスタンプラリーもあって、当曰、大阪城公園からOBPにかけての一帯は多数の参加者で賑わいました。

今回は、歌手でボランティアにも関心が高い桑名正博さん、エイサーの月桃(げつとう)の花歌舞団、そして画家で世界身体障害芸術家協会会員の森田真千子さんらをゲストに迎え、午前11時、保育園児による和太鼓でステージは華やかに開幕。以降、タレントの水谷加奈子さんの司会で、マインドエアロビクス、南京玉すだれ、マジック、手話コーラスなどが次々と披露され、フェスティバルムードが盛り上がりだしていきます。

中でも、自身、車椅子バスケットチームを率いる桑名正博さんのトーク＆ライブや、月桃の花歌舞団の、沖縄の風を感じさせるエキサイティングなステージではいつも最高潮。吹き抜けの階段に人がめづれ観客席を立つて一緒に踊りだす人も。ステージの周囲では、インスタンットシアの体験コーナーや国際交流コーナー、手作り体験コーナーなどが設けられ、お茶席コーナーでは、野点を楽しむ人たちの姿も数多く見られました。また屋外では、お汁粉や焼きそばの店も出て、今回のフェスティバルも盛況のうちにクライマックスへ。最後は全員で「明日がある」を大合唱しさらなるボランティア活動の活性化を誓いました。

特集

サラリーマン（勤労者）のボランティアは今

いま、勤労者のボランティア活動に対する関心が高まっています。労働時間の短縮に伴い自由時間が増加する一方、これまでの「仕事しか知らない会社人間」への反省から、サラリーマン本人も、また会社も、勤労者のボランティア活動を積極的に考えるようになってきました。

今回は、積極的な活動に取り組むサラリーマン、そして自社の社員の活動を積極的に支援する企業、さらに勤労者のボランティア活動のコーディネートに取り組む社協ボランティアセンターを取り材し、あらためてサラリーマン（勤労者）のボランティアについて考えてみました。

大阪ガスの松井淳太郎さんのボランティア活動は、いまから8年前、「いきいき市民推進室」に配属され、同社の社会貢献活動の担当者になつたときから本格的に始まつた。「それでも、小さな灯」運動に参加したことは何度かありました

が、より積極的にいろんな活動に参加するようになったのは、やはり現在の部署に配属されてからですね。

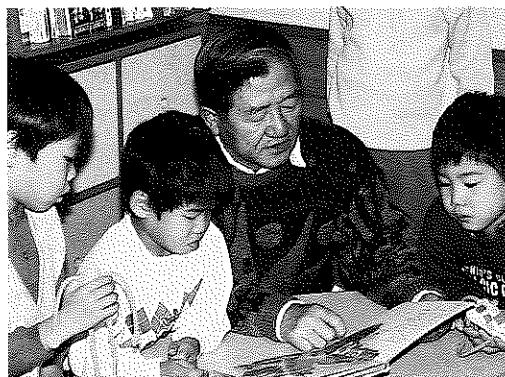
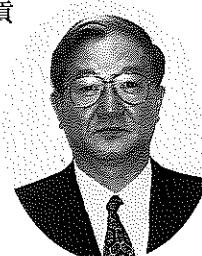
「いきいき市民推進室」は8Pで紹介しているように、会社としてのさまざまな社会貢献活動を企画・実行するとともに、社員に対してもさまざまなボランティア活動を啓発していく部署である。「ある意味では必然的だったのかもしれないが、仕事を通じて社内外にネットワークが広がっていくなか、ボランティア活動がそれまで以上におもしろくなつてきたんです」と語る。

とりわけ、阪神・淡路大震災での支

援活動における経験が、「今まで強い印象として残っている」という。それは、被災地でガスの復旧がまだ完了していないなかで、「お風呂に入りたい」という被災者の声に応えるため、入浴サービスのボランティア活動をおこな

減私奉公ならぬ「活私参公」の姿勢が
サラリーマンにも求められている

大阪ガスいきいき市民推進室 理事 松井淳太郎さん（59歳）



子どもたちに絵本を読み聞かせる松井さん

つたときのことだ。現地にプロパンガスと簡易設備を持ち込み、入浴とシャワーをしていただくというもので、のべ9万人の利用があつたという。やがて順次ガスが復旧していくなか、「やっと今日、ガスが通りました。心ばかりのお礼ですが、復旧したガスで初めて作ったものです」と、あるご家族が、手製のスポンジケーキをもつてきてくださつたという。

「これには全員、涙を流さんばかりに感激しました。そして、自分たちの活動が、こんなにもお役に立てていたのかと思うと、それまでの疲れもいっさくに吹き飛んでしまいました」と松井さん。以降、松井さんの活動は折りがりをみ



海外からの留学生と、フラワーアレンジメントで国際交流

ンにはまさにうつつけの活動だと思いますが、そのためにも、現役時代から活動に取り組み、仕事以外でのネットワークを築いておくことが大切だと思います」。

さらに「私たち日本人の生き方は、戦前が滅私奉公なら、戦後は、その逆の滅公奉私。皆が、社会全体のことよ

りも自分のことを優先させて考えてきた。しかしこれからは、活私奉公の時代です。自分を活かし、パブリックな課題にもボランタリー（自発的）に参画していく。サラリーマンにも、そんな生き方が求められる時代になつてきただけではないでしょうか」。松井さんは、こう前向きに語ってくださいました。

そしていよいよ赴任。「活動は基本的にはオフィスワークと乾季に開催する地方でのセミナー運営でした。オフィスでの仕事は一言でいうと、住民票の整理整頓ですが、首都のカトマンズに年間何10万枚もの住民票が送られてくるんです。ところが、現地ではコンピュータを扱える人が圧倒的に不足している。私がいたときも国連の人口基金からソフトが送られてきましたが、それを扱えるオペレーターがない。いろいろと四苦八苦しましたが、仕事の合間に、地元の人たちと交流するのが楽しかったし、何よりも、ネパールの人たちのあくせくしない日常になぜか心が和みました。のどかだし、日本人のようにせわしくなく、毎日をなんびりと過ごしている。それが印象的だったし、どこか羨ましくもありましたね」と2年間を振り返って語る。

「無理をせず、できる範囲で」が長続きのコツ

松下電器産業(株)アジア大洋州本部 上之山陽子さん

会社のボランティア休暇制度を利用して、2年にわたり青年海外協力隊の一員としてネパールでボランティア活動をしてきた

のが松下電器の上之山陽子さん。現地では、住民登録局で出生届や死亡届、婚姻届などの普及活動に携わってきたという。

ところがネパールとは、中国とインドの境にある小さな国。しかしそこまでは知つても、果たして詳しくどんな国なのかは、多くの人が知らないのが実情。そこで失礼ながら、まず上之山さんにネパールという国について教えていただいた。

「皆さんがあまりイメージされるのはビンテイアで人生を豊かに!」。

「人生いまや80年時代。私の計算では、大学の大学院で「非営利事業論」の講義も行っている。まもなく60歳を迎えるが、その信条は「高齢期こそ、ボランティアで人生を豊かに!」。

「人生いまや80年時代。私の計算では、退職後のサラリーマンの自由時間は、80歳まで生きるとすると約10万時間。これは、20歳から60歳までの就労時間に匹敵するんです。これを充実したものにするか否かは、その人の人生にとってきわめて重要。ボランティアは、自由時間が豊富にある退職サラリーマ

です。ネパールは現金収入は少ないですが、基本的には自給自足の国。国民の多くがヒンズー教徒なので、牛は食べません。ネパールは王国で政治体制は立憲君主制です。地方へ行くと日本では当たり前に思っている「住民登録」という概念自体がありません。そこで、その普及活動のお手伝いをしていた、というわけです」と説明していただいた。

最近になつて物騒な事件も報じられたものの、基本的には大きな紛争もなく、少なくとも上之山さんが活動していた平成5年から7年にかけての2年間は、「危険な地域ではなかつた」とのこと。

とは言うものの、そこは海外。

途上国でもあり、衛生事情も日本と同じというわけにはいかない。青年海外協力隊員は2年の派遣に先立ち、数か月にわた

りも自分のことを優先させて考えてきた。しかしこれからは、活私奉公の時代です。自分を活かし、パブリックな課題にもボランタリー（自発的）に参画していく。サラリーマンにも、そんな生き方が求められる時代になつてきたのではないか。青年海外協力隊員は2年間

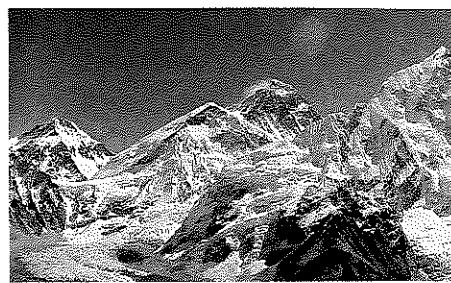
の派遣に先立ち、数か月にわたる「赴任前訓練」を受けるが、上之山さんは当然その訓練を受けた。「基本的に語学訓練とジャイカ（JICA）の制度理解。そして保健衛生の知識を身に付けるというものでした」。

そしていよいよ赴任。「活動は基本的にはオフィスワークと乾季に開催する地方でのセミナー運営でした。オフィスでの仕事は一言でいうと、住民票の整理整頓ですが、首都のカトマンズに年間何10万枚もの住民票が送られてくるんです。ところが、現地ではコンピュータを扱える人が圧倒的に不足している。私がいたときも国連の人口基金からソフトが送られてきましたが、それを扱えるオペレーターがない。いろいろと四苦八苦しましたが、仕事の合間に、地元の人たちと交流するのが楽しかったし、何よりも、ネパールの人たちのあくせくしない日常生活になぜか心が和みました。のどかだし、日本人のようにせわしくなく、毎日をなんびりと過ごしている。それが印象的だったし、どこか羨ましくもありましたね」と2年間を振り返って語る。

住まいは、ネパール人の大家さんのこと。



オフィスに届けられる出生届などの書類と、それをコンピュータに入力、整理する上之山さん



* 特集 * サラリーマン(労働者)のボランティアは今…

上之山さん
のそんな姿勢
が、仕事と活
動を両立させ
る一つの秘訣
かもしだれない。



ネパールには野良犬ならぬ野良牛が少なくないという

階を借りていたと言うが、「停電や断水はよくあつたけれど、慣れれば苦にならないし、対応方法も覚えられる。現地の人と友だちになつて、その人の結婚式に参加できたのもいい経験でした」とあらかんと語る。

こうして任務を終え、無事帰国した上之山さんだが、いまはまた別のボランティア活動に取り組んでいる。それは「国際ビーフレンダーズ大阪」という団体で、自殺防止のための24時間相談電話の受け手になる活動。「これは始めてまだ1年ほどですが、ビーフレンディングといって、悩んでいる人の話をしっかりと聞いてあげること(傾聴すること)が大切なんです。いい加減な気持ちでできるものではありませんが、しかし必要以上に構えることもないと私は思うんです。ボランティア活動に必要なのは、自分がそれを「やってみたい」と思うかどうか。「やってみた」と思えば、無理をせず、できる範囲でやればいい。それが長続きのコツでもあると思います」。

上之山さんは野良牛が少なくなっているとい

NPO法人「広報写真ボランティア」は、趣味で写真撮影を楽しむ人たちが設立したボランティア団体だ。世にカメラ好きの人はたくさんいるが、メンバーたちは「自分たちの趣味で何か社会のお役にたてないだろうか」と考え、この会は発足した。

きっかけは、4年前の「なみはや国体」。大会事務局が、写真撮影を担当する市民ボランティアを募ったところ、多くの市民が手をあげ、彼らの協力で膨大な広報写真・記録写真が撮影された。そしてそのときに集まつた人たちのうち、何人かの有志が「今後も活動を続けたい」とグループを結成。なみはや国体以降も、行政機関などの催しの際に広報写真を撮影する活動をはじめたのがそもそものスタートだ。「もちろん、好きな写真で人の役にたてる」という喜びが一番ですが、加えて、普段ならとても近づけない著名人や一流のスポーツ選手の間近で、その演技や競技を撮影できるという醍醐味もあるんです。大手新聞社の報道カメラマンと同じ席に陣取り、競うようにシャッターチャンスを狙う。カメラ好きにはこたえられませんよ」とメンバーは口を揃える。

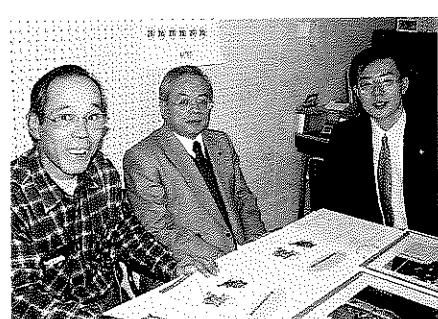
取材の日は、たまたま理事会の日。理事長を務める仲尾公利さんと副理事

仕事を持つていても、チームを組めばかなりのことができるんです

NPO法人「広報写真ボランティア」

長の野並日出夫さん、そして理事の宮地和夫さんの3人が集まつたが、3人ともそれぞれ仕事を持つている人たちだ。仲尾さんは大阪天王寺区で宝石店を営み、野並さんは自治体の職員、宮地さんは自転車の部品メーカーに勤めるサラリーマンである。

写真歴、そして好みの被写体は当然それぞれ異なるが、この会で活動するときは「なによりもチームワークを大切にして動く」という。なぜなら「ボランティアといっても、信頼されて活動するわけだから、ミスは許されない。また法人格を持つた団体として仕事を受ける以上、それなりの責任も発生します。幸い、メンバーのうち私たちのようには仕事を持つている者と持っていない人(定年退職者など)の比率はない人(定年退職者など)の比率は



左から宮地さん、野並さんと、代表の仲尾さん



半々。ウイークデイの活動もありますから、適宜キャステイングをして、出来るかぎり依頼には応えるようにしています」とのこと。最近では、世界卓球選手権大会や東アジア競技大会などの広報写真を担当し、チームワークで大会を大きく支えた。

ボランティア。「足がでることもよくあります」と3人は笑って語る。でも、活動後に「ありがとうございます」と声をかけられれば、そんな些細なことはどこかにふつ飛び。「まだまだ行政の行事に呼ばれることが多いんですが、活動が知られるにつれて、障害者の当事者団体やボランティア団体から頼まれるケースも増えてきました。先日も、障害者のプレーゲーをお手伝いするボランティア団体から依頼されて撮影に行きましたが、できあがつた写真を見て、参加者の皆さん方が大いに喜んでくださったが、私たちの仕事は、このように“喜んでいたく”のが目的。喜んでいただければ

私たちも嬉しいし、また大きな励みになりますね」と仲尾さんは語る。
仕事との兼ね合いについては、「基本的に、けっしてムリをしないようにしています。職場に迷惑をかけては、活動で喜んでいたいたい分が帳消しになりますから。その点、グループで動いているのが強みです。それぞれ仕事を持っていても、チームを組めばかなりのことができる：勤労者のボランティア活動を考える際の、大きなヒントになる言葉かも知れない。



米国同時多発テロ事件の救助活動を支援

大阪北消防署 山東雅克さん・小濱直之さん

9月11日に発生した
「米国同時多発テロ事件」。

世界中を震撼させ多大な影響を与えたこの事件は、死者および行方不明者が5000人を超える大惨事を招き、史上最悪のテロ事件となつた。

崎などから集まつた11名の消防隊員たちだ。

メンバーは全員、今年の6月にインディアナ・ポリスで開催された消防隊員の世界大会に参加した経験を持つ。2年に一度開催されるこの大会では、世界各国から消防隊員が集まり、水泳や各種のスポーツ競技、そして消防競技などが行われる。

消防隊員の“オリンピック”的な消防署には往復にかかる日数も含めて前後5日間の訓練の成果を競い合う、いわば自己負担。消防隊員としての“任務”ではなく、まったくのボランティアとしての

救助活動を支援するため、ボランティアでニューヨークへ飛び立つ人たちがいる。大阪北消防署に所属する山東雅克さん、小濱直之さんらをはじめとする東京、横浜、川



山東雅克さんと小濱直之さん

の。ここでは大会競技だけでなく、参

加者同士の交流も盛んだ。今回渡米した隊員たちも、この大会を通じてニューヨークの消防チームと知り合い、帰国後もメール交換をするなど互いの親交を深めてきた。

「テロ事件が発生したとき、大会で知り合つたデビッド・ロドリゲス氏から“Please help us.”とメールが入つた。それが今回の活動のきっかけになりました」と山東さんは話す。世界大会を運営する連盟にも携わっている横浜洋光台消防署の志澤隊員の呼びかけで、山東さんや他の隊員たちはアメリカ行きを決意。

「現地で頼れるのはデビッド氏だけでしたが、初日は彼ともなかなか連絡が取れず、しばらくは待機状態。なんでもいいからできることから手伝わせて欲しく」と少し焦る気持ちにもなりました」と話すのは小濱さん。やがて連絡が通じたデビッド氏の計らいで、翌日には現場入り。10月8日と9日の2日間、廃墟と化したビルの瓦礫の撤去作業や救助作業などを支援した。

そして、そんな彼らの活動を支えて

私たちも嬉しいし、また大きな励みになりますね」と仲尾さんは語る。

仕事との兼ね合いについては、「基本的に、けっしてムリをしないようにしています。職場に迷惑をかけては、活動で喜んでいたいたい分が帳消しになりますから。その点、グループで動いているのが強みです。それぞれ仕事を持っていても、チームを組めばかなりのことができる：勤労者のボランティア活動を考える際の、大きなヒントになる言葉かも知れない。

私たちも嬉しいし、また大きな励みになりますね」と仲尾さんは語る。

特集 サラリーマン(労働者)のボランティアは今…

N T T 西日本株式会社・大阪支店に勤務する大塚さんは、勤続13年のサラリーマン。その傍ら手話ボランティアをはじめ、もう10年になる。活動のきっかけは「ボランティアセンター主催の手話講座に参加した姉に、面白いから『一度



大塚悦宏さん

手話ボランティアは、いまや生活の一 部です

西日本電信電話株式会社 大阪支店 設備部 大塚悦宏さん

「いつしょに行つてみない?」と誘われたこと。

それまでは、ボランティアとはまったく無縁の世界で生活していた。しかし手話を学び始めてから、彼の活動はどんどん積極的に。

現在、大塚さんは東大阪市ボランティアセンターの登録団体、「あゆみ」と「陽だまり」という二つの手話サークルに所属している。それぞれ週一回、2時間ずつ勉強会を行い、センターからの要

くれたのは、やはり現地のアメリカ人の警察官や消防隊員たちだったという。「規制がかかった現場での検問やチェックポイントでも、事情を話すと、『せつかく日本からわざわざ応援に駆けつけてくれたんだから…』と、すぐに快くなかに通してくれた。彼らが私たちのことをとても信頼してくれたおかげで、今回の活動が成し遂げられたんです」とも小濱さん。

現地では、アメリカの人たちから「本当に良くなってくれた!」と握手を求められたり、帰りの飛行機では機長から乗客に向かって日本からのボランティアだと紹介されたりもした。「実際に向こうで活動して思いましたが、日本ではまだまだボランティアに対する認識が浅い部分があるかもしれません」と率直に意見を伝える小濱さん。

また、山東さんはこうも話す。「緊急災害の現場に携わるプロフェッショナルとしては、本来、感情や情熱だけではなく、自分の仕事には何よりも冷静で客観的な判断力が求められます。しかし、今回の決断は、やはり正しかったと思っています」。

「身につけていたジャンパーが、粉塵で汚れたのがとても誇らしかった(笑)」と笑顔で話すふたり。決断したとおり、無事、救援活動を果たせた喜びと、2日間で得たアメリカで同じ仕事に就く人たちとの心の交流は、彼らの一生の財産になることだろう。

望があれば、手話通訳ボランティアとして出かけていく。また東大阪市の「手話奉仕員」として、成人式やスポーツ大会、入学式や卒業式など数々の式典やイベント、講演会で手話通訳を行っている。その他、手話サークル同士が集まる連絡会や市の研修会にも参加するなど、実際に多くの毎日を送っている。

会社では設備部でネットワーク設備を担当しており、業務内でボランティア活動に携わる機会は少ないというが、労働組合が年一回取り組んでいる「全国身体障害者ゴルフ大会」には、自ら進んで参加。この大会でも手話通訳を行い、広く障害者との交流を深めている。

「よく続けているね、と感心してください」と感心してくれる人たちは、仕事や家庭と同じように今や生活の一部です。それだけに、無理をしないことが長く続ける秘訣。もちろん、同僚や家族の理解や協力がつてこそ続けられるんですが」と語る。

そのためにも、仕事や家庭と、活動を両立させる上での努力は常に欠かさない。また家庭では三人のお子さんのお父さんである大塚さん。仕事を持つ奥さんをフォローし積極的に育児に関わりながら活動をこなしている。休日にボランティアの予定が入った週は、平日に子どもたちの面倒を見るなど、家族と過ごす時間もとても大切にしているのだ。



手話通訳をする大塚さん

そんな大塚さんは、「自分にとつて新しい世界がどんどん開拓されていく。そこがボランティアの魅力です。普通なら聴覚に障害のある人とコミュニケーションを取るのはなかなか難しいし、めったにチャンスもない。でも手話を学んだことで耳の聞こえない人とも自由に話をすことができるようになり、同じ目的を持つ仲間もたくさん増えました。障害を持つ人にとつても、こちらに手話が伝わるということは大きな安心感につながるようで、会話していると次々に話が盛り上がり、気がついたらすっかり友だちになつていて。(笑)。手話はコミュニケーションの壁を超えて、新しい世界を広げる素晴らしいツールなんです」とも語る。

スピーチや講演会での手話通訳の時、大きなステージに立つこともあるが、これも普段のサラリーマン生活ではなかなか得られない貴重な経験だ。「ライフワークとして、一生続けていくつもりです」と語る大塚さんから、熱いパッションが伝わってくる。

20年前にはじまつた、従業員が参加するボランティア活動“小さな灯”運動

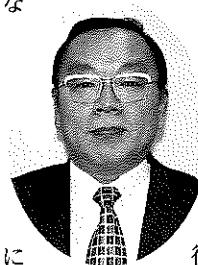
大阪ガス株式会社

●社員数を上回る、ボランティア活動の延べ参加者数

がはじまつた。これは文字通り、社会に小さな灯をともしていくという、

公益事業としての
性格から、大阪ガ
スでは古くから視
力障害者や聴力障害
者など、体の不自由な

方々をお客様とした料理教室などを開いてきたが、今から20年前の1981年に、そうした活動をより積極的に展開していくための“小さな灯”運動



に「いきいき市民推進室」を設置。社員のボランティア活動をさらにバックアップする組織体制を整え、多彩な地域貢献・社会貢献に取り組んでいる。

「こうした活動は、いまでは当社の風

高齢者施設で食事介助のお手伝い

年間の参加者延べ人数は社員数を上回っています。世間からはときどき『なぜ、そこまで社員に対してボランティア活動を推奨するの?』と聞かれたりしますが、社員がいきいきとした一人の市民になることは、本人のためでもあるし、会社のためにもなる。仕事のことしか知らない社員よりも、ボランティア活

それへの参加呼びかけ等も積極的に行っていきます。当社では年間100件近くの自主活動プログラムを企画・実施していますが、クリーンハイキングなど、家族連れで気軽に参加できるものも少なくありません。こうしたプログラムを入り口に、一人でも多くの社員がボランティアマインドを身に付けて

かもしれないよ」と甚
いるんですけど、かく言
れを密かな楽しみに、
景気の低迷は当分続く
さな灯“運動の伝統の
途絶えさせません”と
ぱり語つてくださつた

活動やボランティア活動に参加するための休暇制度で、③と④は、そうした活動への資金援助と、会社施設の提供制度。これらに加えて、地域社会貢献表彰制度も設け、毎年、顕著な活動を行った社員数名を表彰している。そして「こうしたパックアッシステムと同

そんな力闘がだから、社員の活動を支援する制度も充実。平成3年には①ボランティア休業制度、②コミュニケーション休暇制度、③コミュニティギフト制度、④施設・器材貸与制度をスタートさせた。①は言うまでもなくボランティア活動のために一定機関の休職を認める制度で、原則は一年以内だが、これまでに2年以上の有給休暇が認められます。②は、自治会活動などの地域活動を支援する制度で、ボランティア休業制度と併用可能。

動などを通じて多くの人と交わり、そのなかで会社以外の世間を知り、それをして仕事に活かしてくれれば会社も活性化する。いきいき市民推進室を人事部に置いているのもそのためなんです」と春井徹郎室長。



“小さな灯”運動で障害者の外出介助

意識啓発と支援制度が共に充実

松下電器産業株式会社

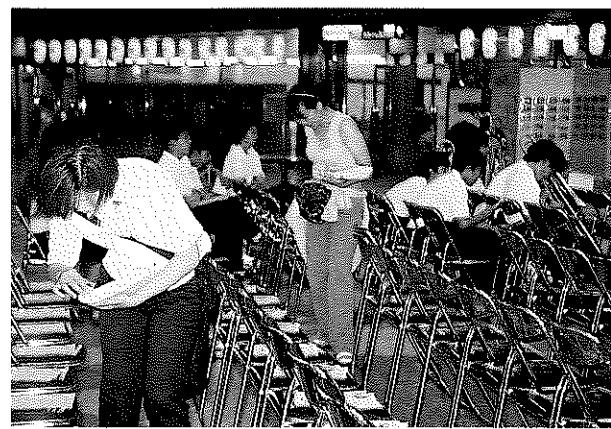
- 「社会の公器」を経営理念とし、積極的に社会貢献活動を推進

ボランティア活動をするサラリーマンにとって、松下電器産業株式会社ほど恵まれた環境も珍しい。中でも特筆すべきは、社風としての社会貢献意識の高さと、支援プログラム充実の2点だろう。

「松下電器には、産業人たるの本分に徹し、社会生活の改善と向上を図り、世界文化の進展に寄与せんことを期す」という経営理念があり、「電器を通じて社会に貢献する」という考え方方が基本姿勢となっているんです」と、同社社会文化



大阪ビジネスパークで毎年開催している「ツイン21チャリティーコンサート」では、社員のボランティアが運営をサポート



募集は年4回、年間100件をめどとしており、平成10年の制度発足以来、平成13年9月までに292件164団体への支援を行つてきた。

「この制度をスタートさせて驚いたのが、会社を離れて一個人としてボランティア活動をしていた社員が予想外に多かつたことです」と菊地さん。社会文化グループでは、それまでにも手話や点字翻訳の講座を開催したり、チャリティーコンサートの運営ボランティアを募集したりと、さまざまな情報提供や啓発を進めていた。「そういう呼び掛けにこれまで反応を示さなかつた人が、実はそれぞれの地域で既にいろん

グループ菊地健さん。また、企業は社会によって支えられ、社会と共に歩むもの」という考えに基づき、本業以外のところでも社会貢献活動を推進。昭和44年に早くも社会業務本部（現・社会文化部）が設置され、社内の表彰制度でも社会貢献活動を対象としている。

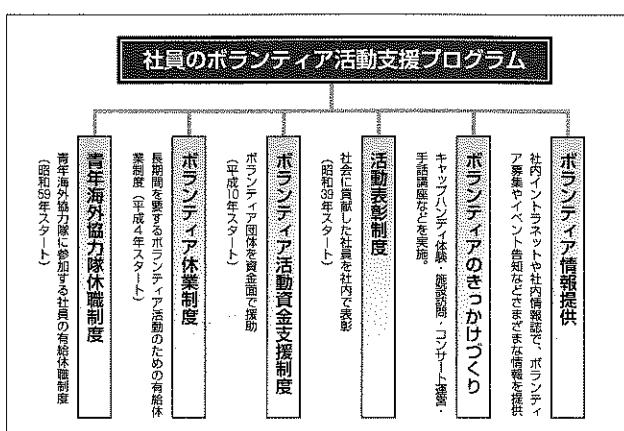
そのような土壤ゆえに同社では「社会貢献」という言葉と意識が全社的に深く浸透しており、それがボランティア活動に対する周囲の理解と賛同が得られやすい風土を育んだことは想像に難くない。

中でも特徴的なのが「ボランティア活動資金支援制度」である。これは、松下電器および関係会社の社員または配偶者、定年退職者が参加するボランティア団体に対して、1件25万円を上限とする資金支援をするというもの。募集は年4回、年間100件をめどとしており、平成10年の制度発足以来、平成13年9月までに292件164団体への支援を行つてきた。

「この制度をスタートさせて驚いたのが、会社を離れて一個人としてボランティア活動をしていた社員が予想外に多かつたことです」と菊地さん。社会文化グループでは、それまでにも手話や点字翻訳の講座を開催したり、チャリティーコンサートの運営ボランティアを募集したりと、さまざまな情報提供や啓発を進めていた。「そういう呼び掛けにこれまで反応を示さなかつた人が、実はそれぞれの地域で既にいろん

●休業制度や資金支援をはじめ、多角的にバックアップ

な活動をやつてたんです。」陰徳“として黙つて活動していたそういう人達が、表舞台で脚光を浴びるようになった。世の中の方が変化してきたということでしょう」とも。



社協ボランティアセンターと経済団体との 協働で動き始めた、「労働者マルチライフ支援事業」

東大阪市社会福祉協議会

労働者のボランティア活動への参加を促進するため、厚生労働省では「ボランティア国際年」の今年度から、労働者マルチライフ支援事業を開始した。これは、労働者がボランティア活動に参加することで、仕事以外の世界に視野が広がり、退職後の生きがいづくりにもなる他、地域における人的ネットワークの構築にもつなげようというもので、日経連やNPOのインターミディアリー（仲介機関）も協力して全国で取り組みが進められているものだ。

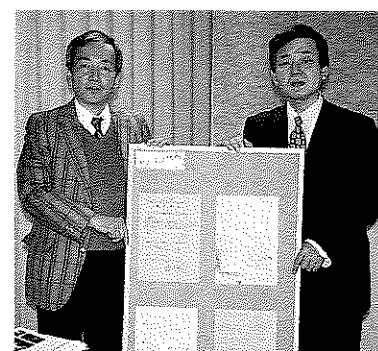
「150社の大所帯なので、とりあえずは20社で『労働者マルチライフ支援事業企業連絡会』を立ち上げ、ここでいろんなことを相談し、活動プログラムを決定していくことにしました。本格的な動きはこれからですが、すでにボランティア情報の掲示板や、書き損じハガキや使用済み切手などを入れてもら『ボランティアの小箱』を作り、参加企業に置いていただいています。

平行して、労働者のボランティアを受け入れて下さる施設を開拓するために福祉施設などにアンケートを実施し、相当数の受け入れ施設をリストアップしました。また近々、大阪ボランティア協会の早瀬事務局長を招いての講演会や、最初の活動プログラムとして、「よなが」。



大阪府では、オール大阪レベルでの動きがある一方、東大阪経営者協会と東大阪市ボランティアセンター（東大阪市公社内）の連携で、全国に先駆けた取り組みが始まっている。ちなみに、東大阪経営者協会は、東大阪市、八尾市、柏原市などに事業所を置く企業の経営者で組織された経済団体。加盟企業は、東大阪市内に本社を置くハウス食品など約150社。この事業が本格的に動き出せば、サラリーマンのボランティア活動全体の大好きなパワーアップにつながるのは言うまでもない。

地元にある枚岡神社の梅林公園の清掃活動も計画しています。不景気が続き、ましてや会員企業の大半は中小企業ですから、大変と言えば大変。でも感謝は上々で、なんとかこの東大阪でマルチライフ支援事業の成功モデルを作りあげたいですね」とプロジェクトマネージャーの児玉恭教さんは熱っぽく語る。また「ブシケという心の相談ボランティアさんと協力していただき、自ら事業としてカウンセリングの活動を



加盟企業に配布されたボランティア情報の掲示板を手にする児玉さん(左)と田中さん

始めたんですが、意外にニーズが大きいのに驚いています。会員企業の社員にボランティア活動を推奨していくだけでなく、こうしたユニークな活動にも取り組んでいきたい」と東大阪経営者協会の理事で事務局長の田中良一さん。

東大阪市ボランティアセンターも、もちろん今回の事業を共同で推進。「これまで、ややもすれば社協のボランティアセンターは企業とのパイプが細かつた。しかし今回の事業を機に、地域の企業・事業所と太いパイプでつながっていきたい。各種の情報提供を含めて、全面的に協力していくつもりです」と吉岡所長。その言葉を待つまでもなく、社協ボランティアセンターと企業との協働は、大きな課題だと言われてきました。そのためには、いま一つ進展が遅れてきた感がいなめない実情の中で、今回のプロジェクトは、まさに絶好の機会。

今後の活動の進展が大いに期待される。きた感がいなめない実情の中で、今回のプロジェクトは、まさに絶好の機会。

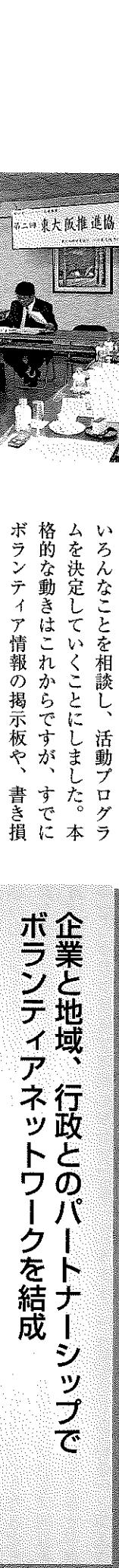
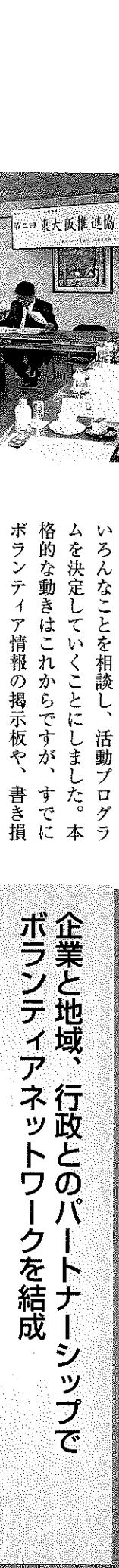
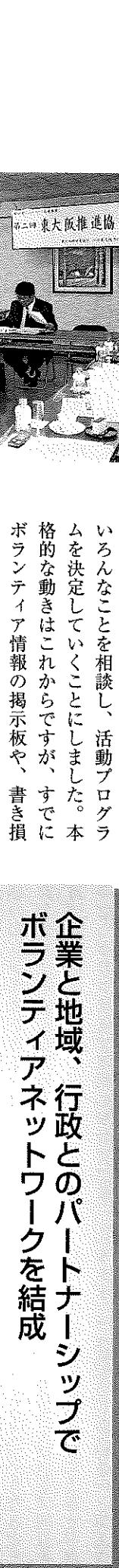
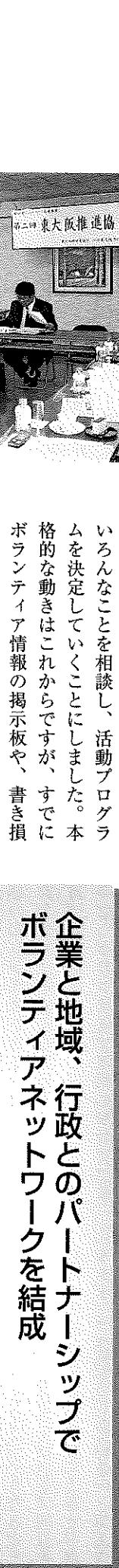
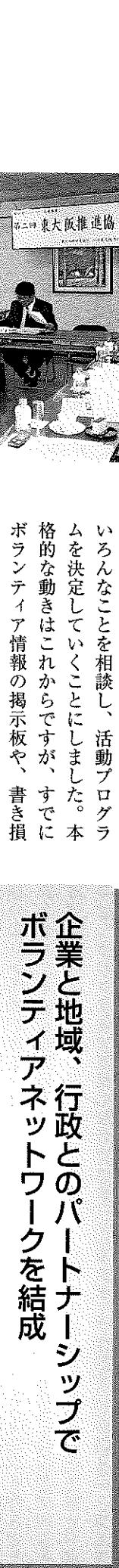
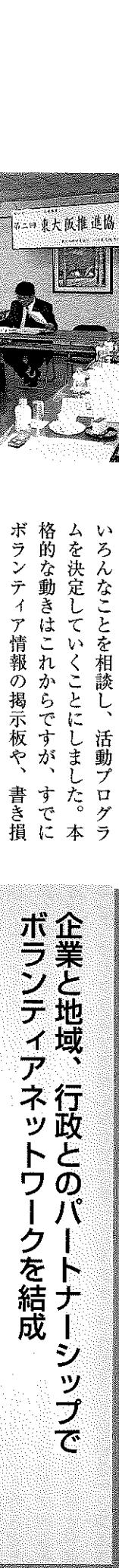
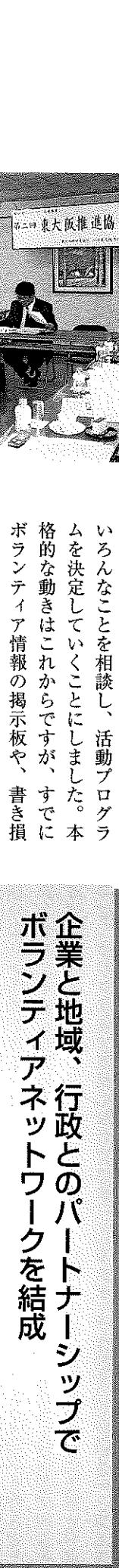
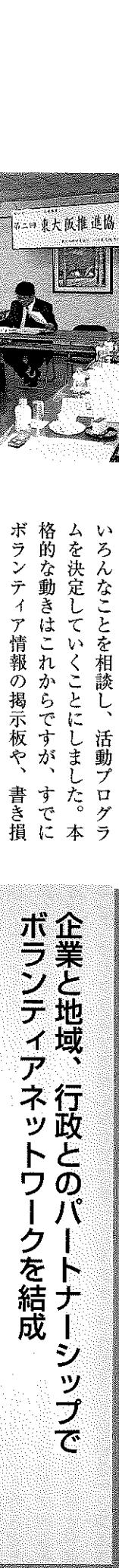
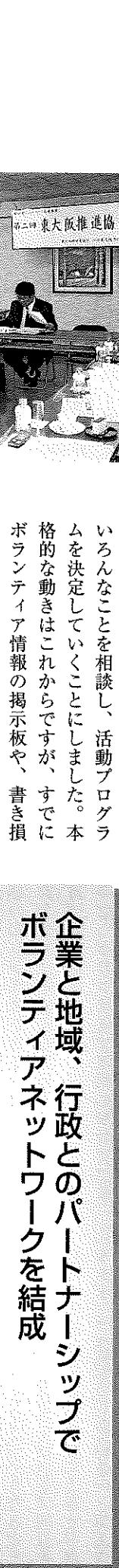
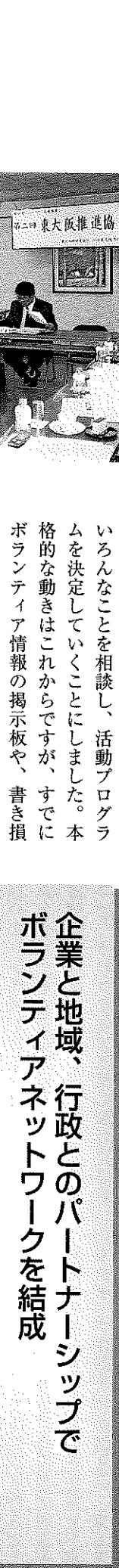
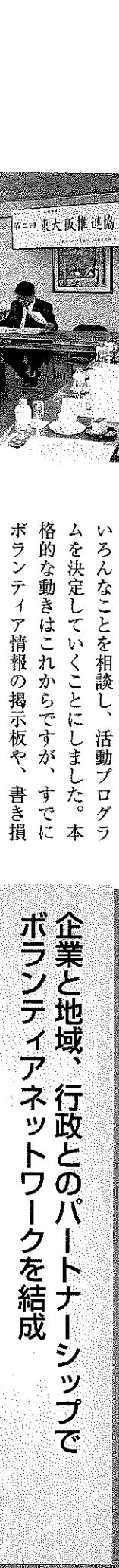
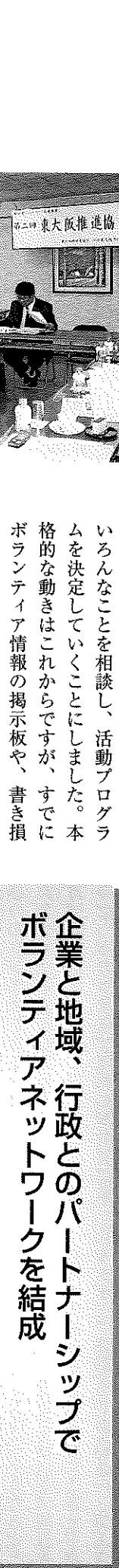
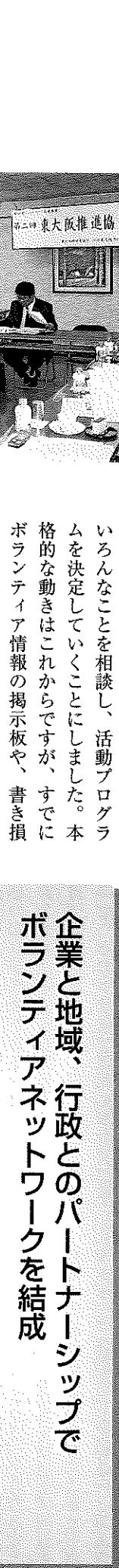
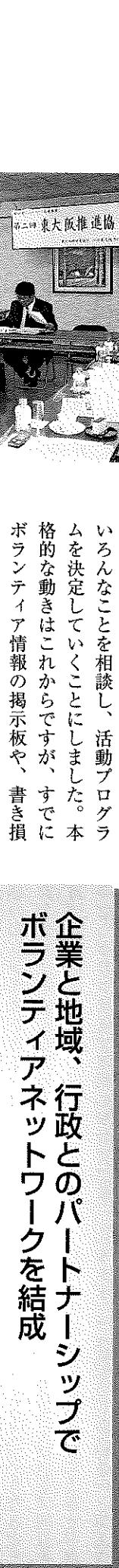
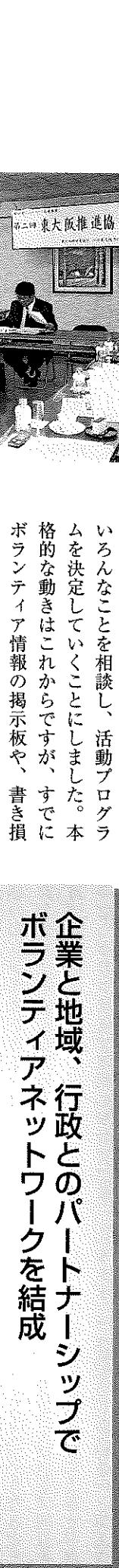
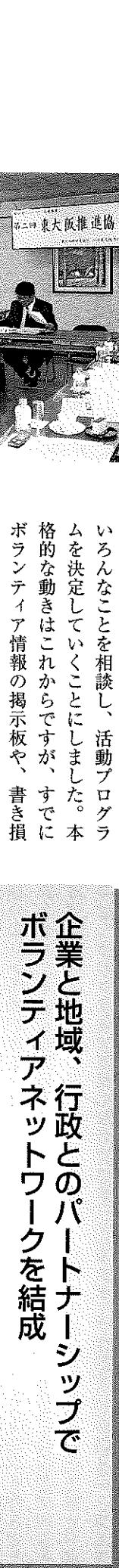
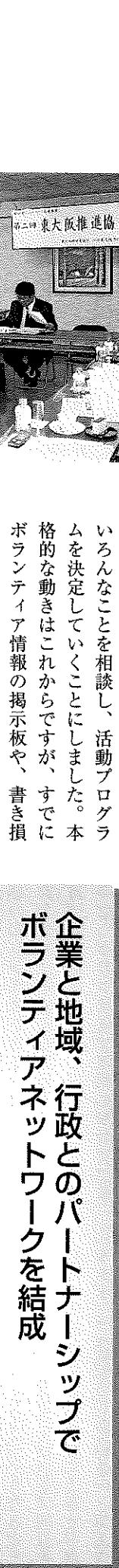
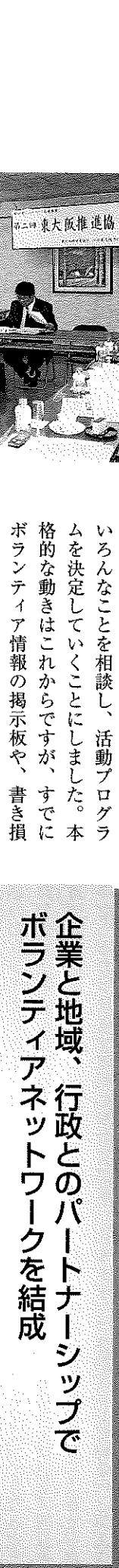
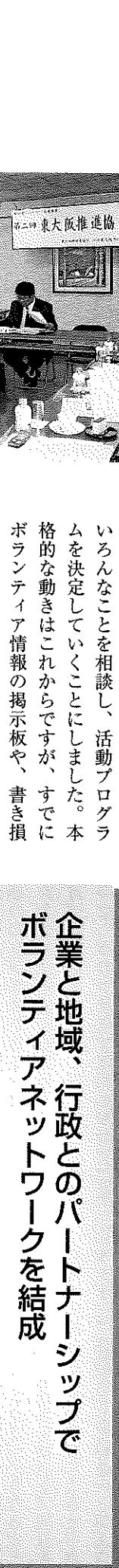
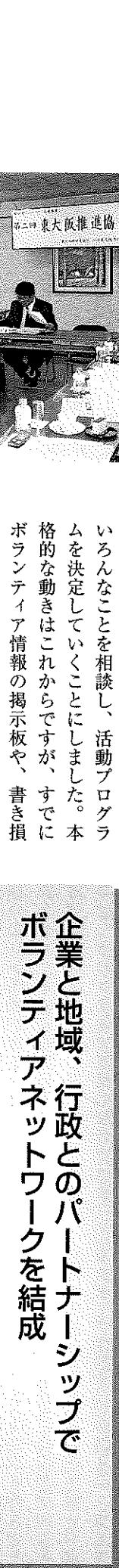
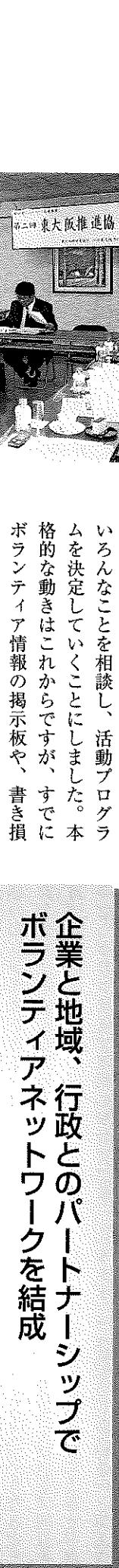
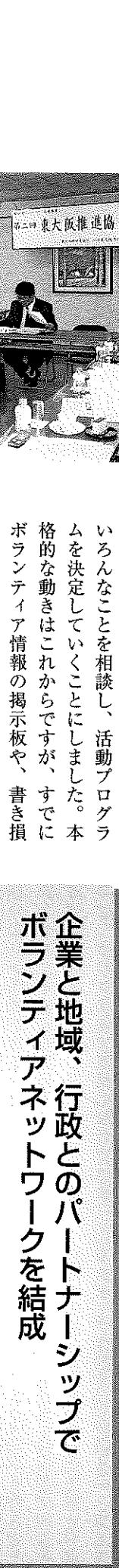
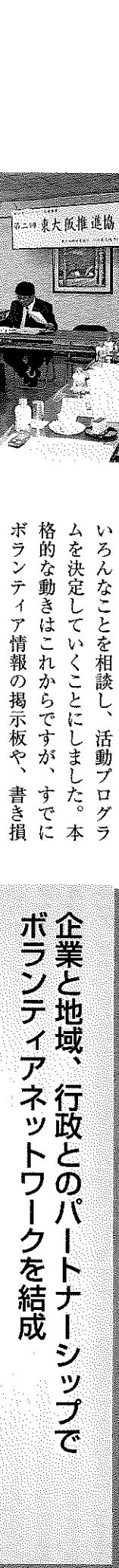
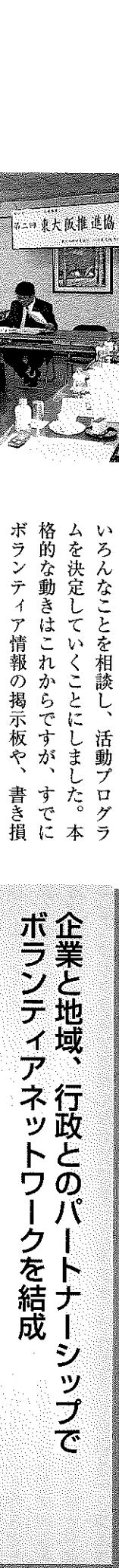
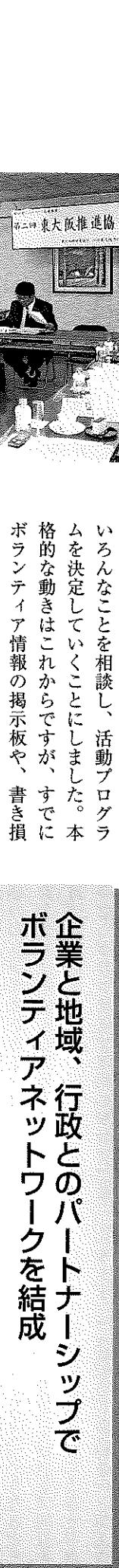
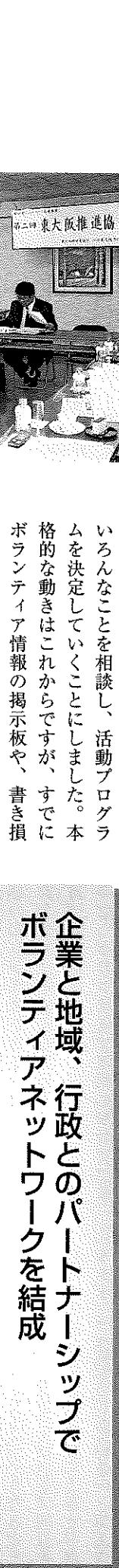
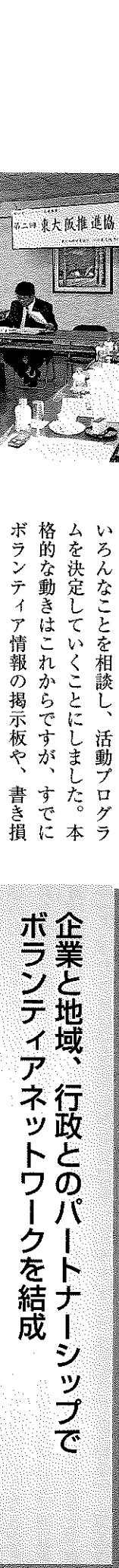
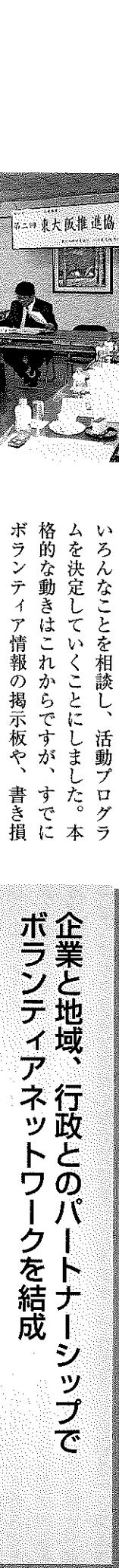
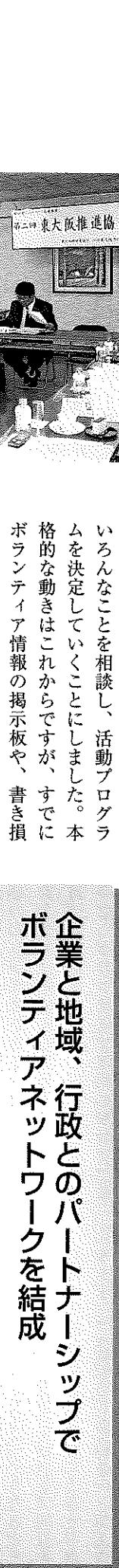
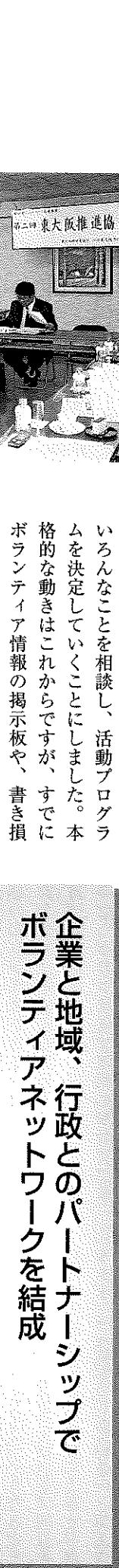
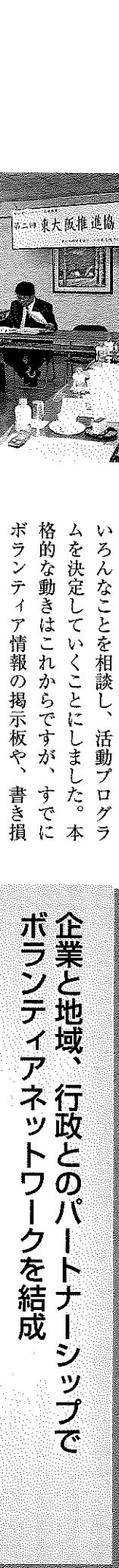
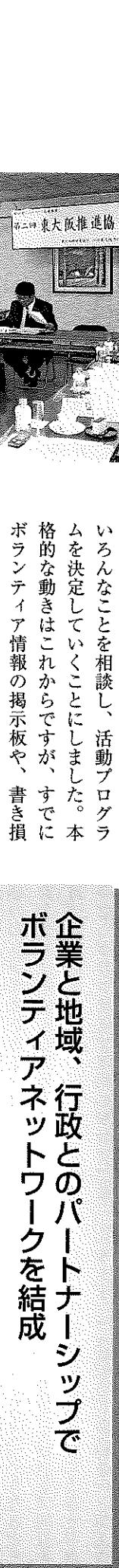
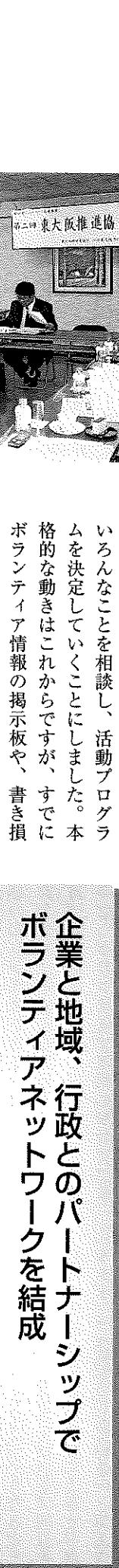
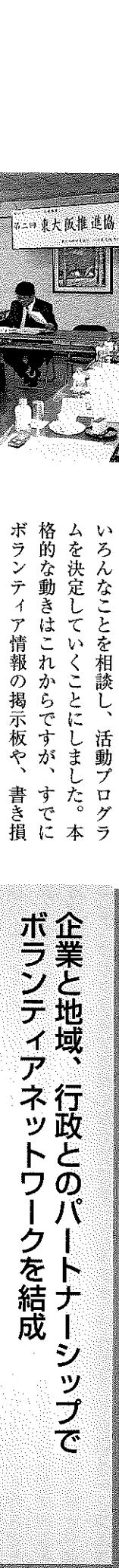
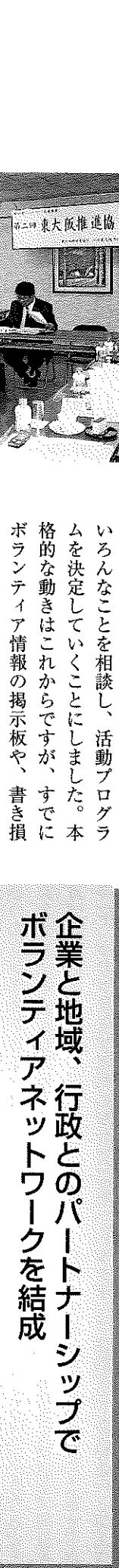
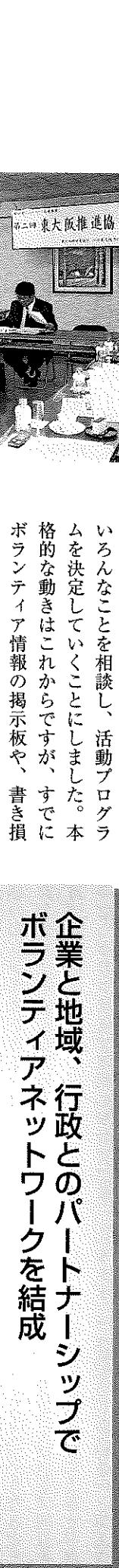
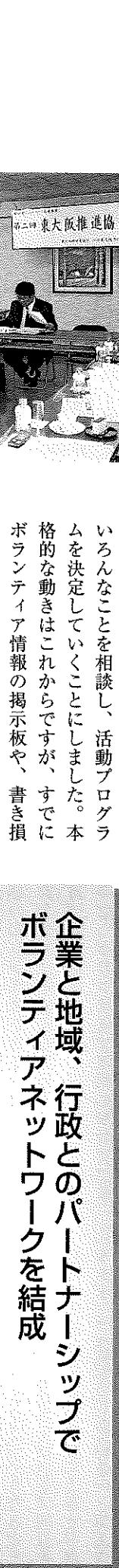
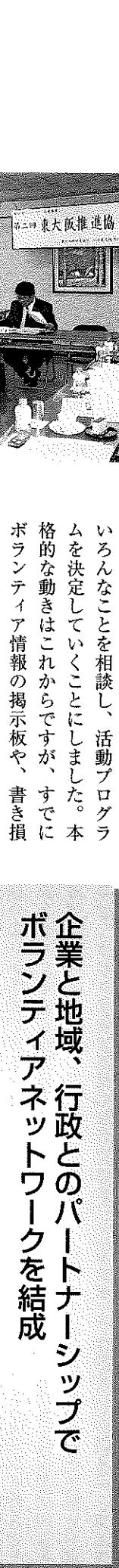
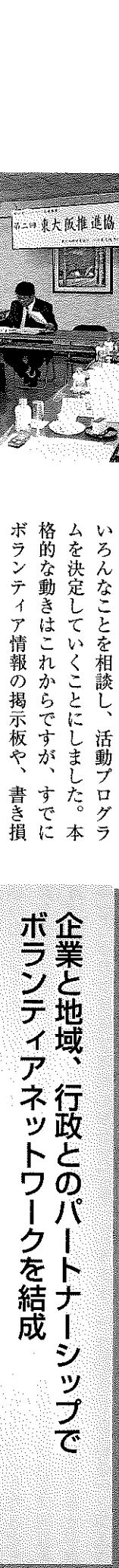
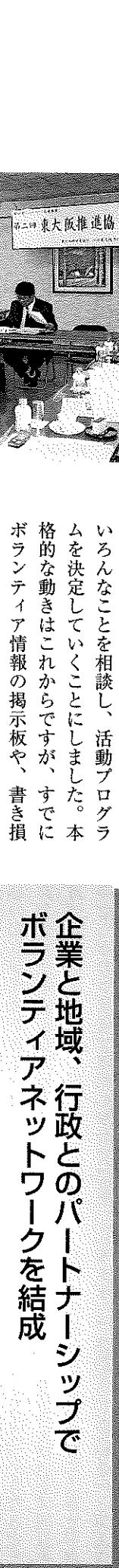
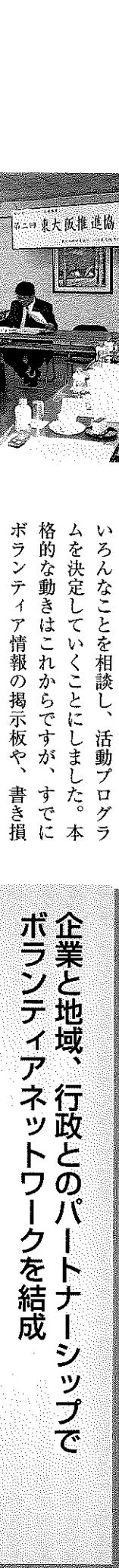
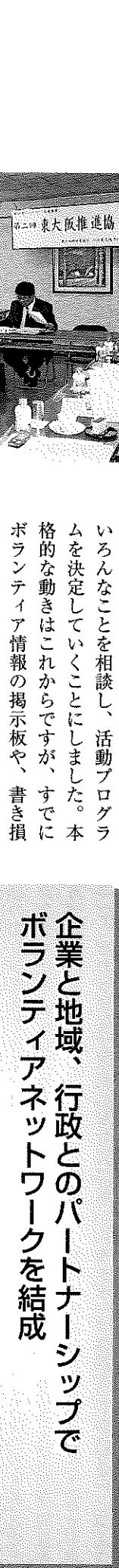
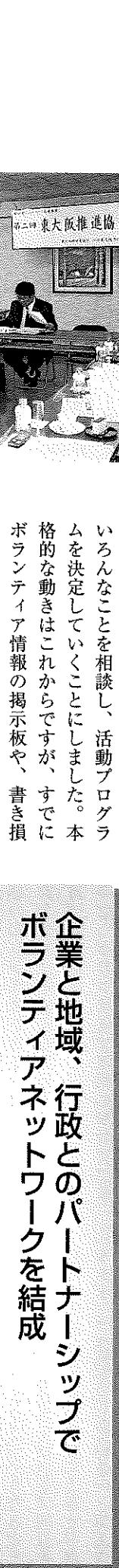
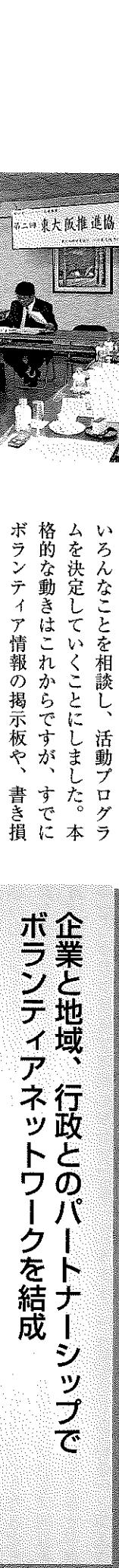
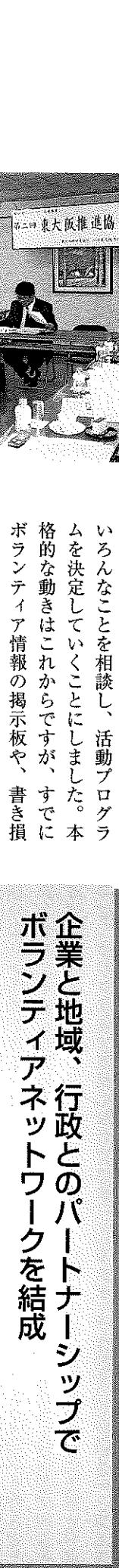
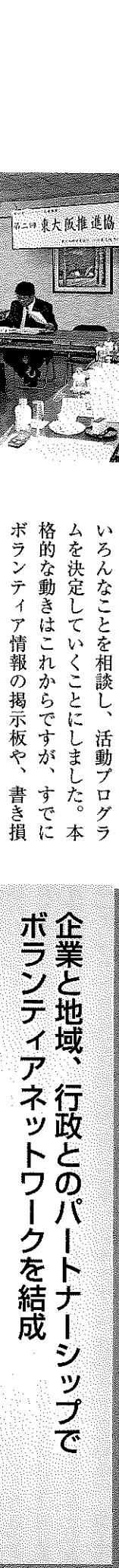
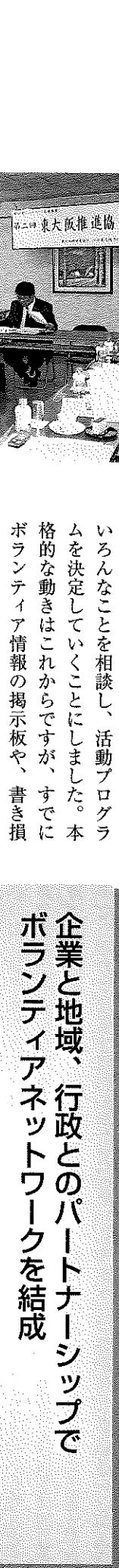
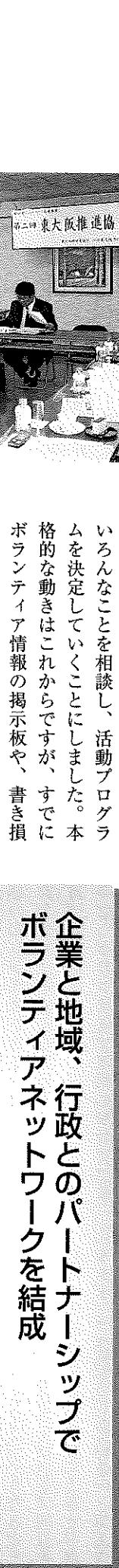
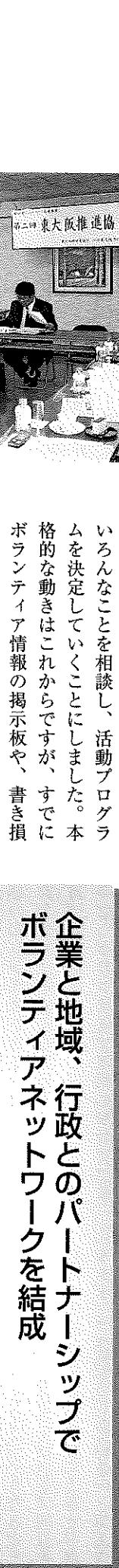
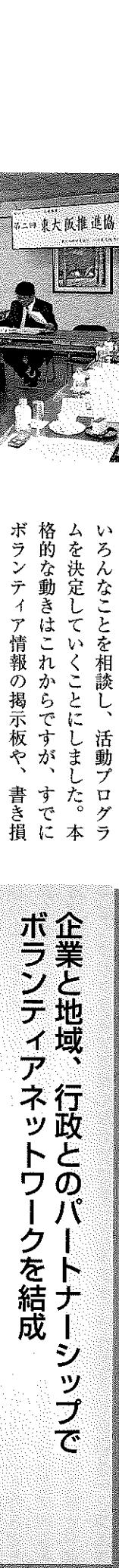
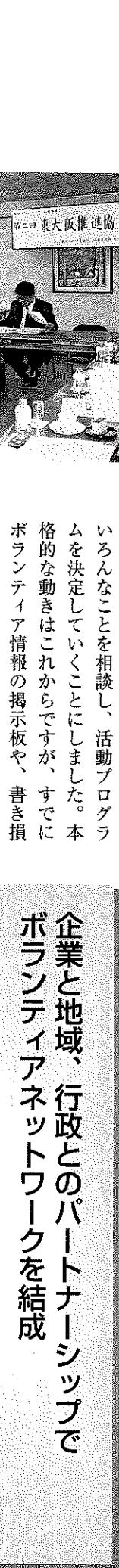
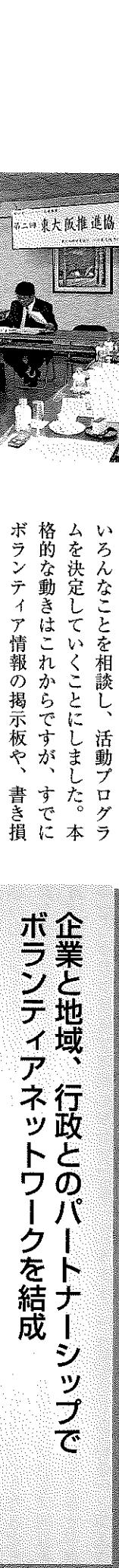
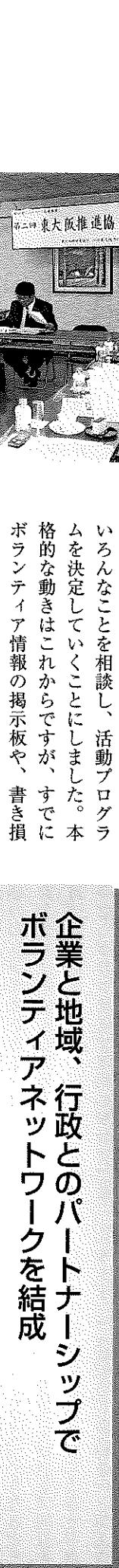
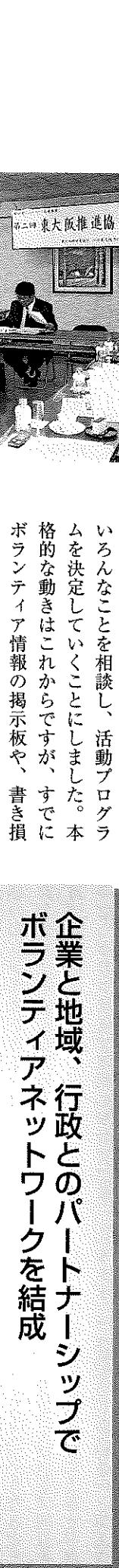
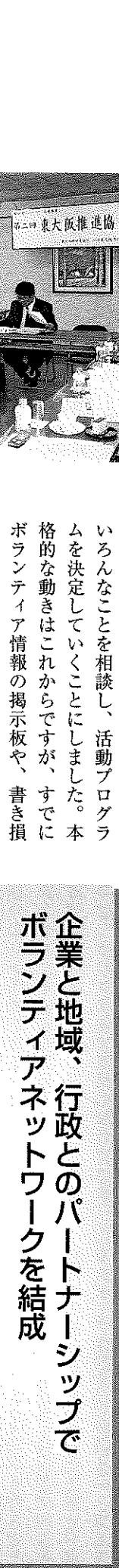
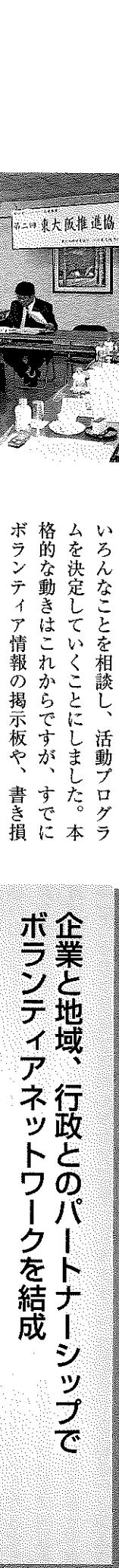
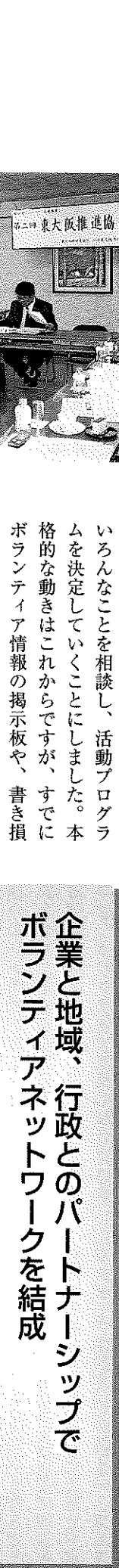
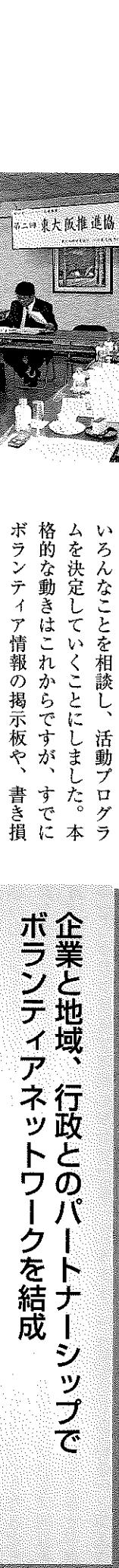
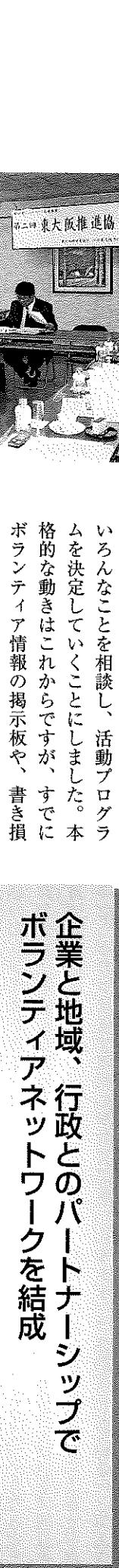
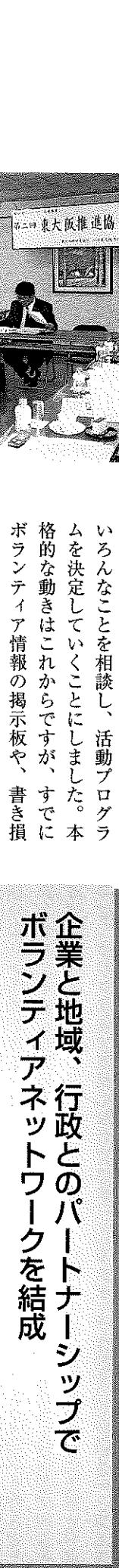
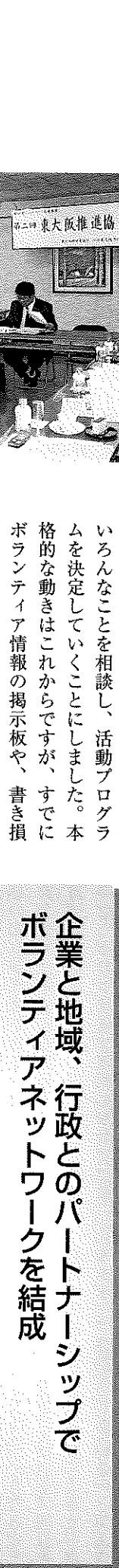
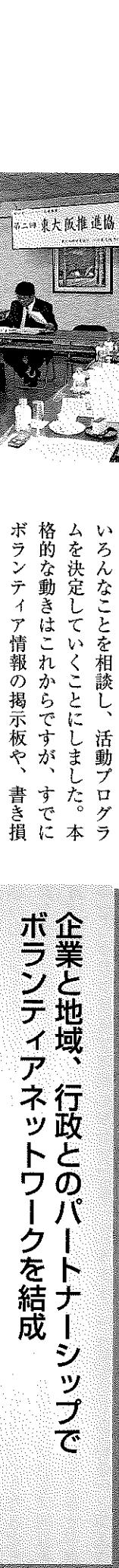
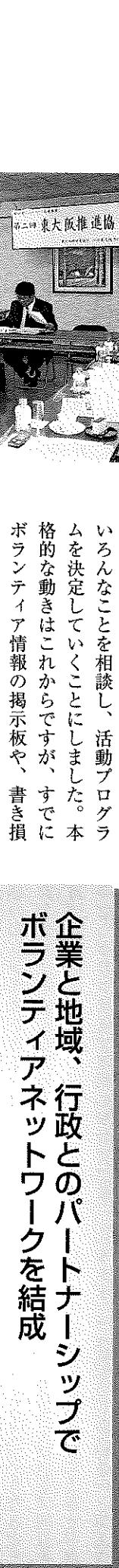
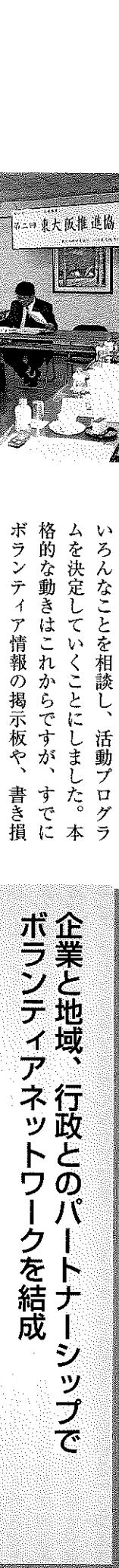
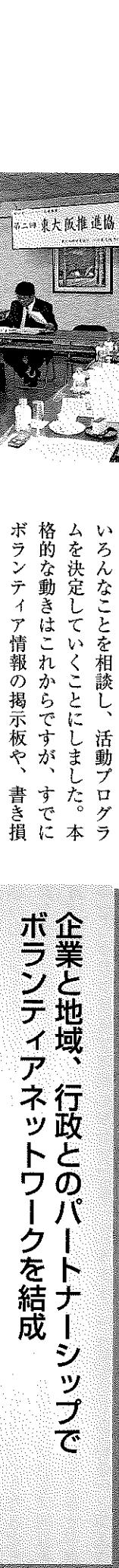
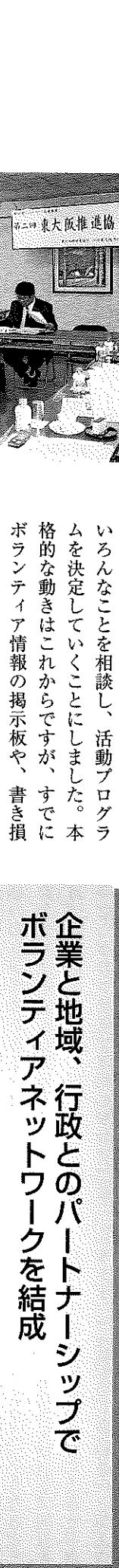
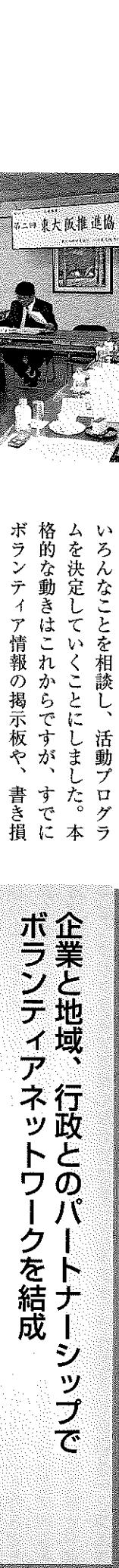
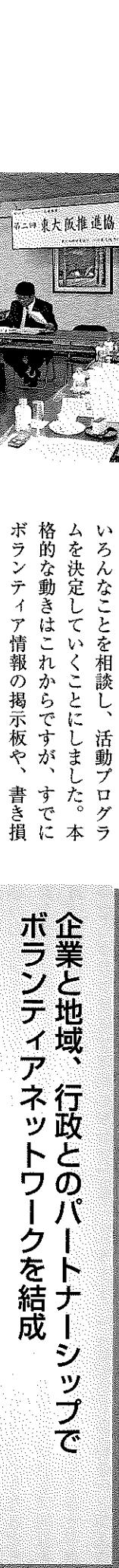
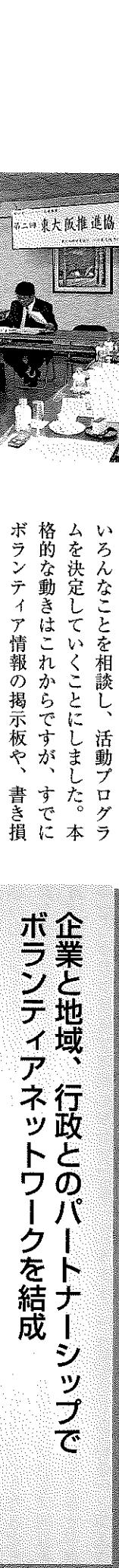
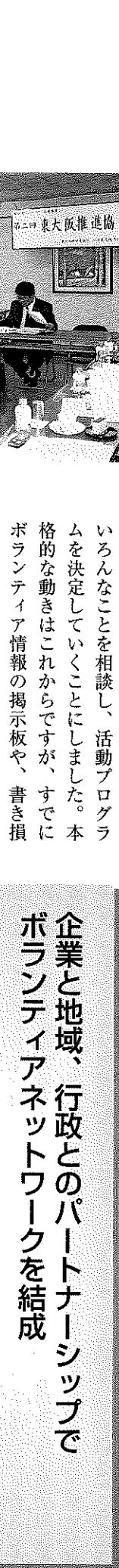
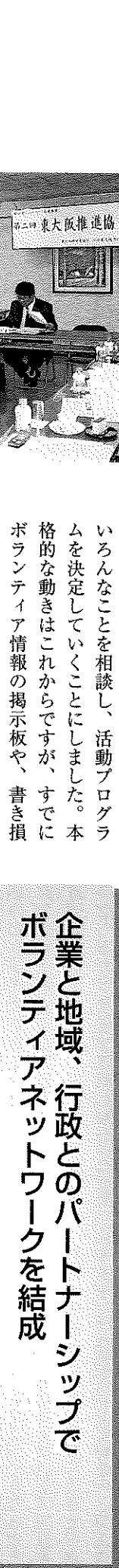
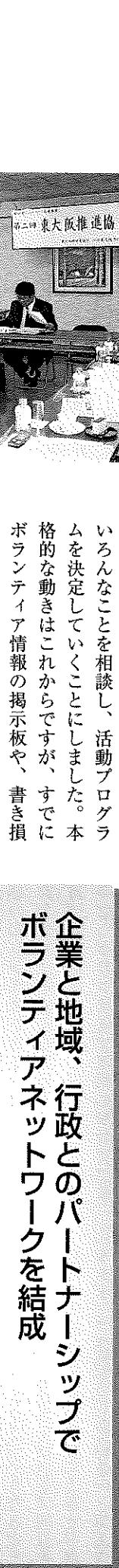
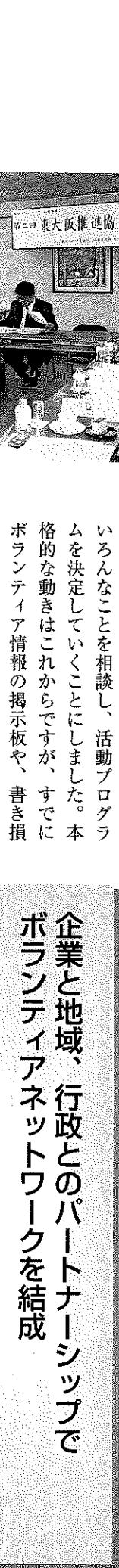
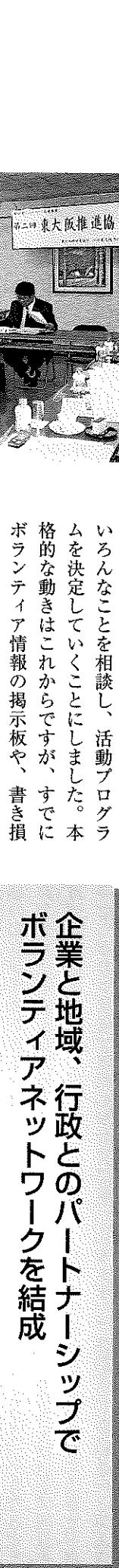
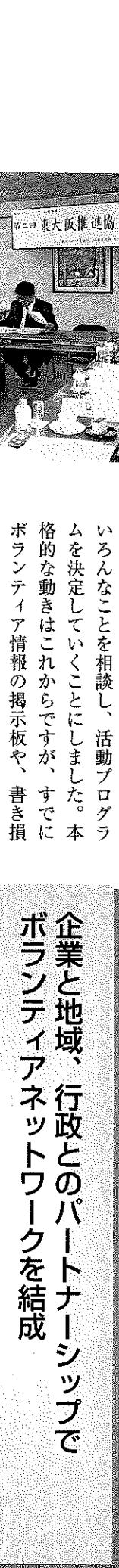
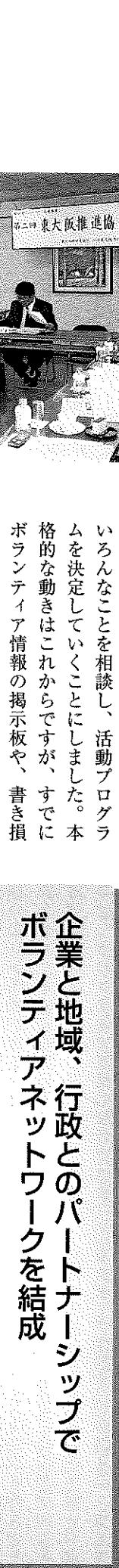
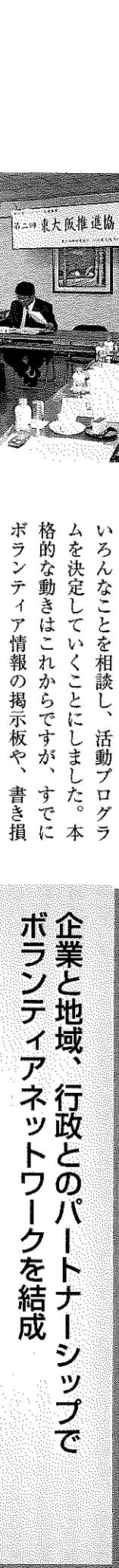
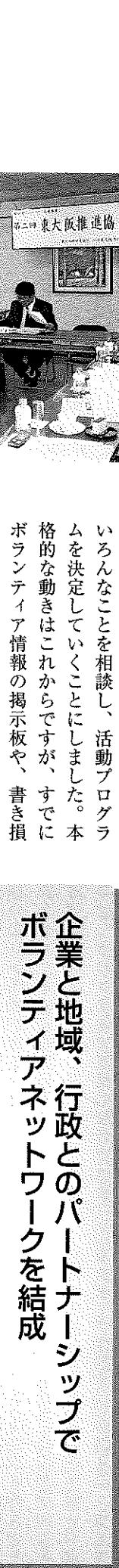
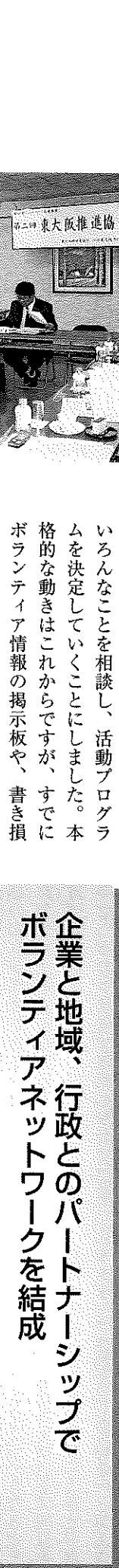
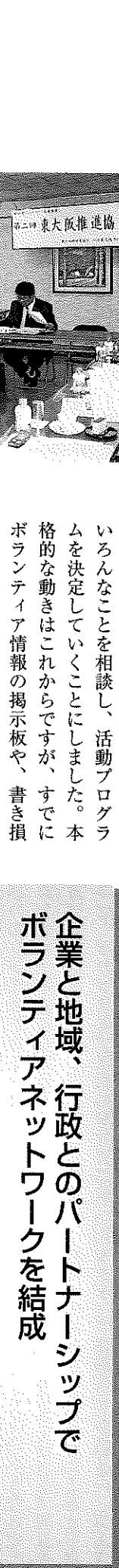
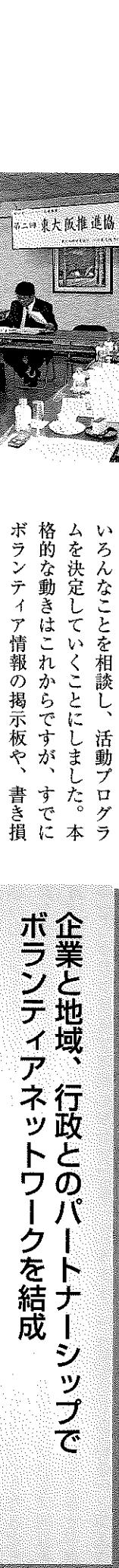
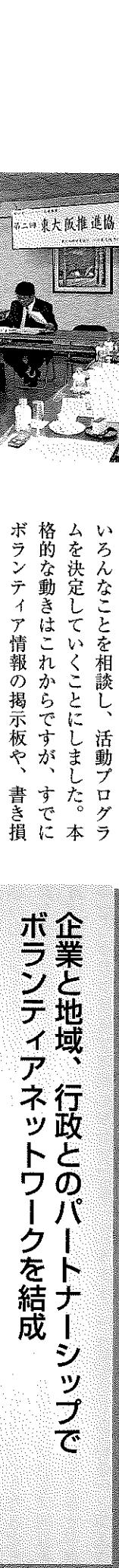
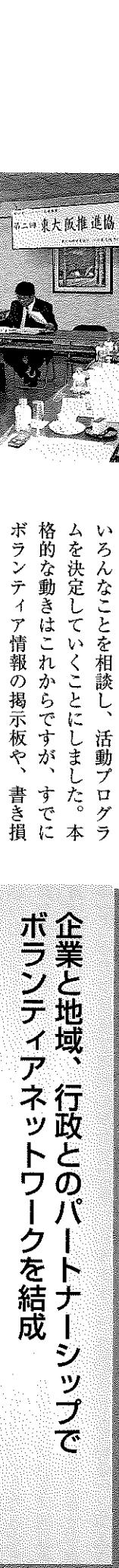
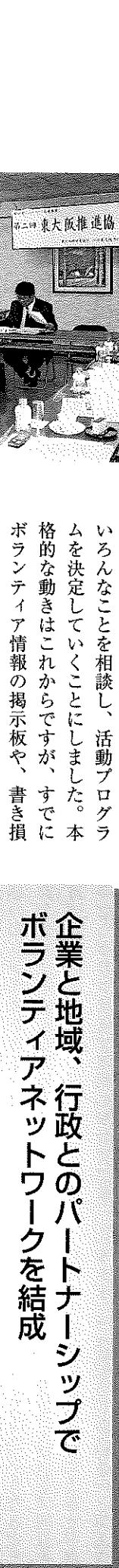
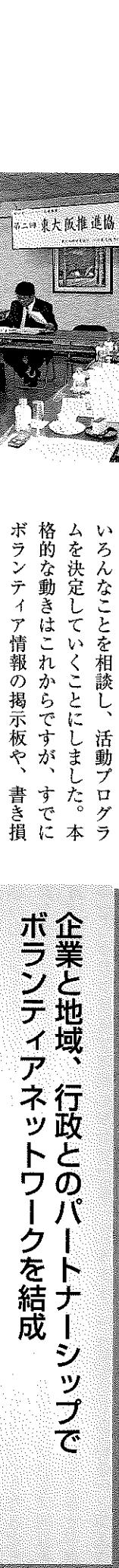
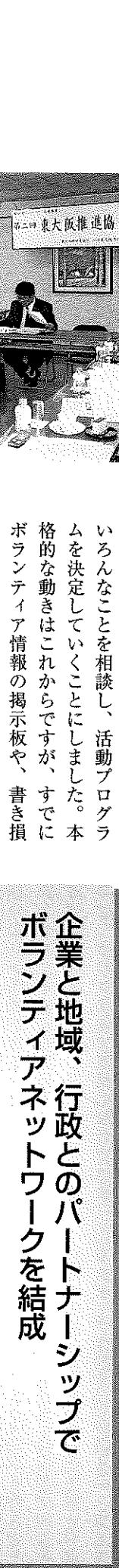
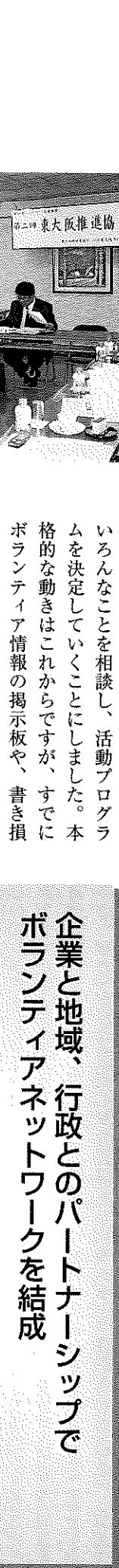
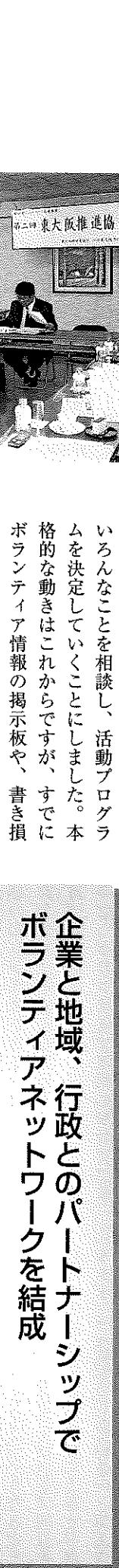
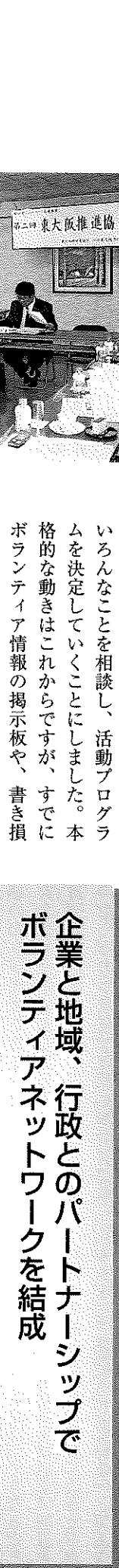
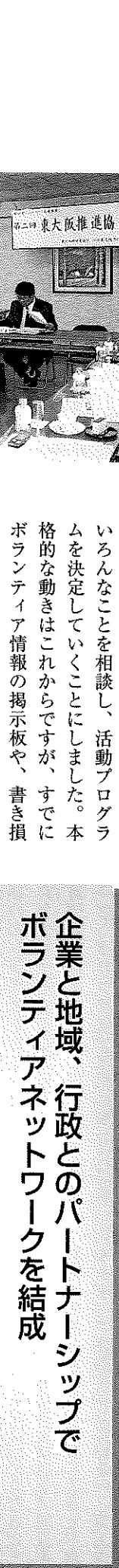
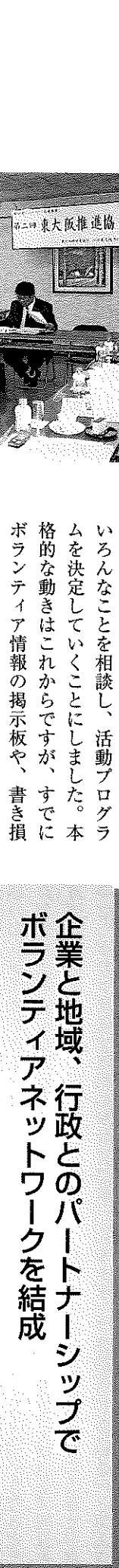
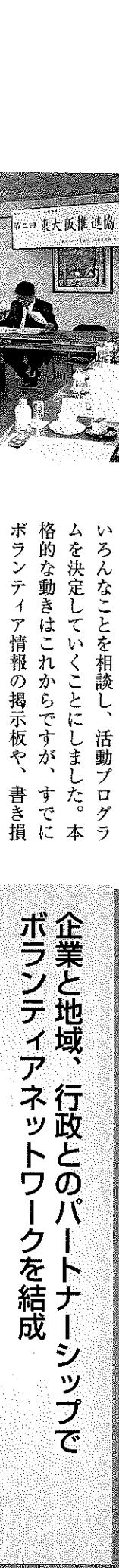
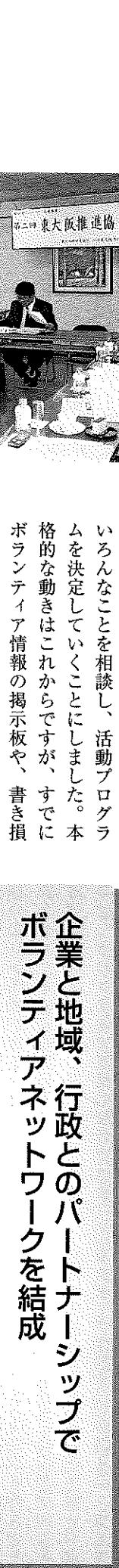
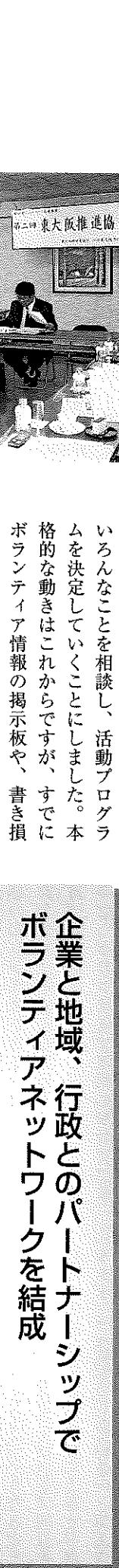
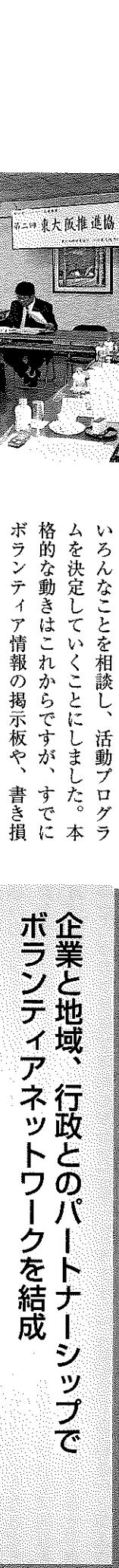
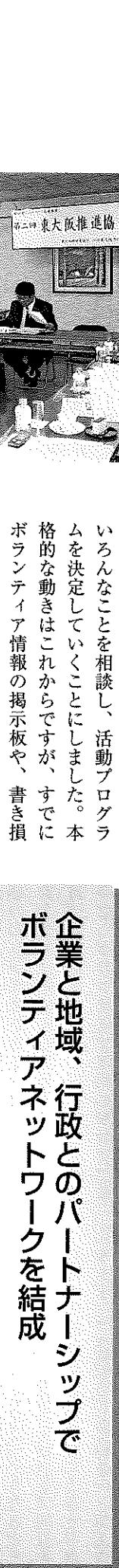
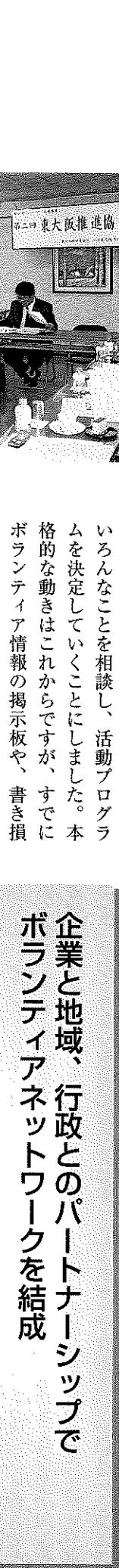
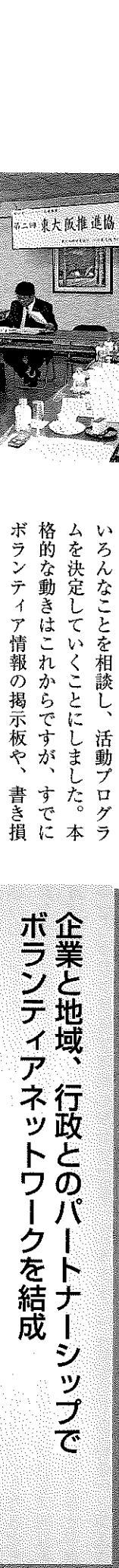
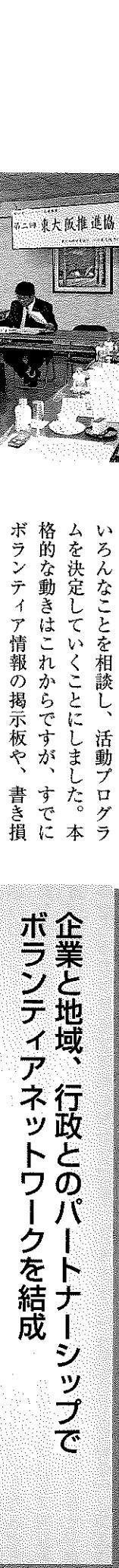
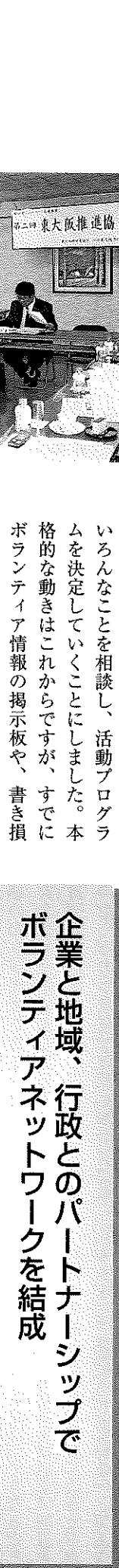
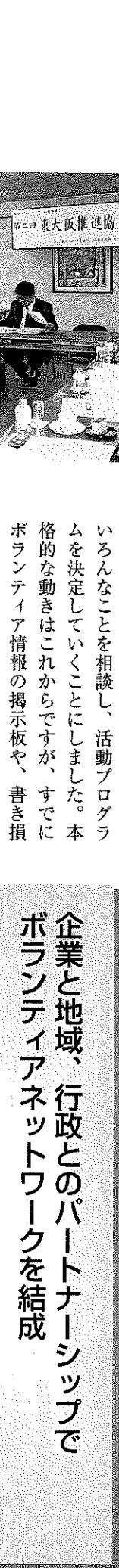
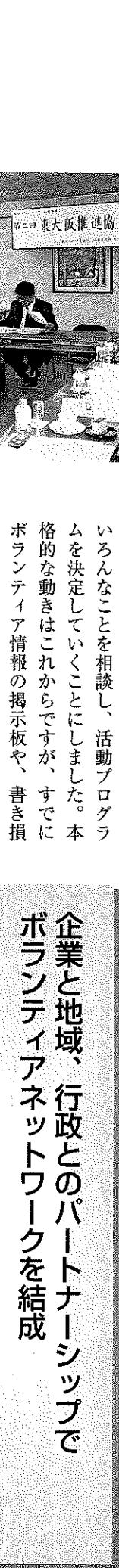
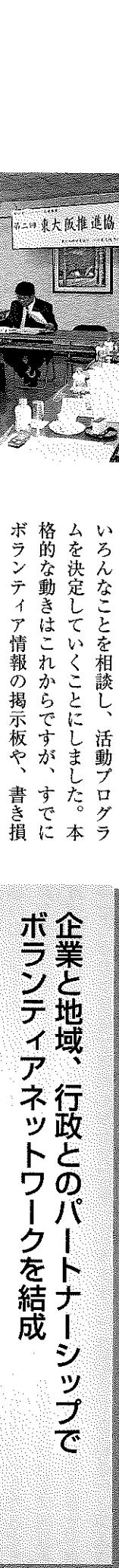
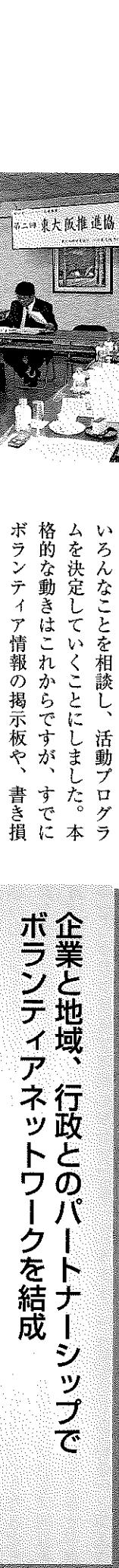
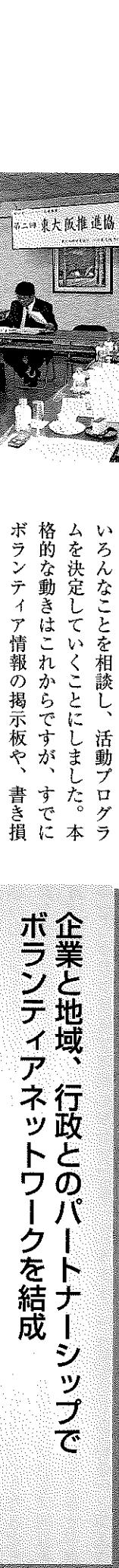
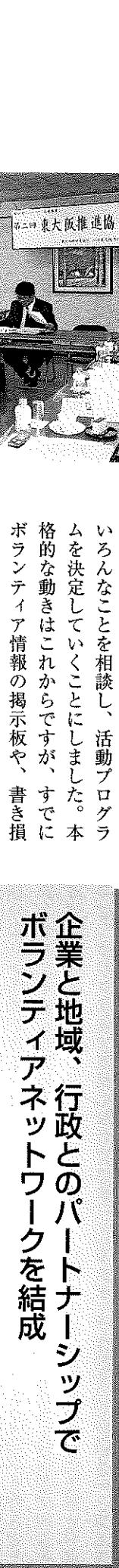
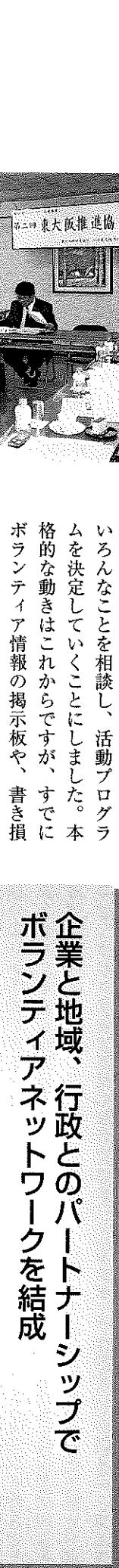
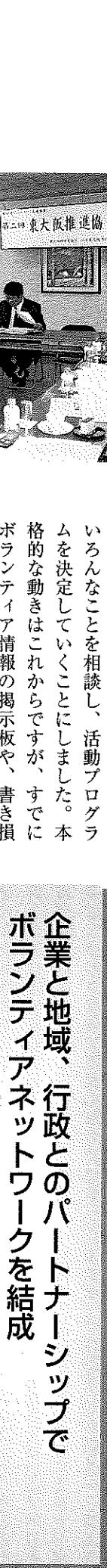
企業と地域、行政とのパートナーシップで ボランティアネットワークを結成

豊中市社会福祉協議会

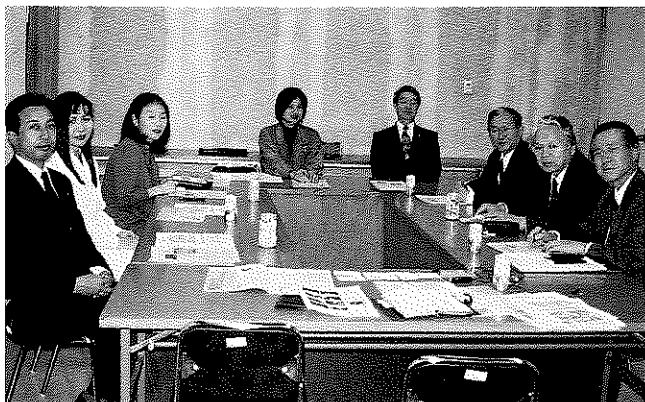
● 28社の企業と23名の個人が加盟

現在、28の企業・団体と23名の個人が会員として加盟。地域の社会貢献に取り組む企業や団体・個人で構成され、法人、個人を問わず、市内に在住もしくは在勤で、会の趣旨に賛同する人なら誰でも気軽に参加できる。

Vネットとよながの設立までの経緯



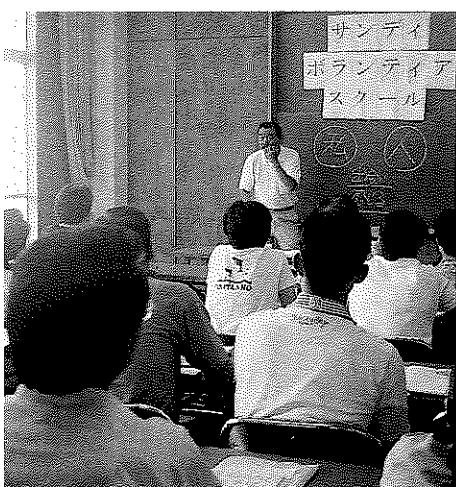
特集 サラリーマン(労働者)のボランティアは今…



Vネットとよなか運営委員の皆さん



毎年行われている「ヒューマン・カーニバル」



定期的にボランティアスクールを開催

は、平成9年に遡る。当時、NPO法の施行やボランティア休暇の導入など、企業の社会貢献活動や地域のボランティア活動が高まるなかで、豊中市社会福祉協議会は「企業・団体の社会貢献担当活動検討委員会」を設置。大阪府立大学の牧里毎治教授（現在関西学院大学教授）を座長に、企業の社会貢献担当者や行政、ボランティアグループの代表者など各方面から委員が選出され、3年間にわたり調査研究や検討会が行われた。

「社協が実施した『企業の社会貢献活動意向調査』では、社会貢献の意義を感じつつも、財政的、時間的、人的な理由でなかなか取り組めないという回答がたくさんある一方、ボランティア活動を始めたいけれど、どこで何をしたらいいかわからない…と、社協内に

声も聞かれました。そこで、同じ思いの企業人たちが集まることで何かできないか…と考えたことがVネットとよなかのベースとなっているんです」と語るのは、豊中市社会福祉協議会のコーディネーター勝部麗子さん。「社協サイドからだけではなく、企業からの視点も交えて地域福祉について考えていくたい」：社協には、そんな思いもあつたという。こうして平成11年12月、そのときのメンバーが運営委員となり、Vネットとよなかは設立された。

●年間を通じて、幅広い活動を展開中

以来、積極的な活動を続けてきたVネットとよなか。具体的なプログラムについては、2ヶ月に一度行われている運営委員会が中心となり企画・立案する運営委員会が中心となり企画・立案されている。「社会人のためのサタディボランティアスクール」や「企業向け出前講座」、「企業向けボランティアセ

ミナー」など、年間を通じてボランティアについての多彩な講座を定期的に開催。これらの講座は企業人だけでなく一般市民にも開放され、受講を機会にVネットとよなかに個人加入する人も少なくないという。また毎年、「ヒューマン・カーニバル」と題したチャリティ・イベントも実施。バザーやパフォーマンス、コンサートが繰り広げられるステージで地域との交流を図っている。豊中市ボランティアフェスティバルやボランティアにまつわるその年々のイベントへの参加、会員同士の情報交換や親睦を図るために交流会なども行い、幅広い活動を展開中だ。さらにホームページを作成したり、年4回、広報紙を発行するなど、情報提供による啓発活動も充実している。

一応は社協がコーディネーター役を担っているが、活動を支えているのはメンバー一人ひとりのボランタリーや意識であるのは言うまでもない。中には企業の担当者として参加しながら個人としても会員になっている人もいる。

松下電器産業株式会社の青山富士男さんもそのひとり。社会業務室の社会貢献の担当者としてVネットとよなかに参加している青山さんは、休日などを利用して、社協が行っている高齢者支援サービスの運営ボランティアと「竹レンジャード」という竹林保護のグループの一員としても活動している。「Vネットとよなかでの活動を通じて、一個人として啓発させられている部分は大きいですね」と語る。

同じく運営委員の山元弘久さんは、「私も在職中、企業の担当者として運営委員会に参加していましたが、退職したいまは一市民として活動を続けています。それは、イベントや交流会では、企業人、ボランティアグループの人、地域の人…といろんな人たちが集まるわけですから、いろいろと学ぶことが多い。異業種交流の場として、ビジネス上の情報交換ができることもありますし、ここで学んだことを他のボランティア活動でも活かすこともできる。皆さんにぜひ積極的に参加していただきたいですね」と語る。

今年からは豊中市役所も加盟し、さらに体制も強化されてきた。今後は企業向けのアンケート調査や事例集づくり、経営者層や商工会議所関連の企業への働きかけも検討している。企業と地域住民、行政がひとつ輪になり、その輪をどんどん広げながら地域に貢献していくのだ、とVネットとよなかは、ますます意欲的だ。

北摂

2001年ボランティア国際年
摂津市ボランティア連絡協議会結成10周年記念事業
「ボランティア一人ひとりが主役です」を開催

摂津市ボランティ

アセンターは、今年
で結成10周年を迎え
たボランティア連絡

協議会との共催で、
表記の事業を摂津市立安威川公民館にて開催。

第一部は、ボランティア劇「明日があるさ！ ボランティア」と題して、ボランティアが自らシナリオ・演出・大道具・小道具などを作成。ボランティアが日常の生活にどのように関わっているかをわかりやすく紹介しました。皆さん、劇はまったくの初心者でしたが、準備段階から試行錯誤をくり返し、当日はみんなで一致団結。また出演者の熱演で、会場を笑いと感動の

渦に巻き込みました。

第一部は講師に笑福亭竹林氏を迎えて、「子育ては楽しく」をテーマに講演していただきました。



ボランティア国際年記念事業 まちづくりサロン

テーマ〈ボランティア　いい夢　いい街　いい未来〉

去る12月2日（日）、高槻市コミニ

ティ推進室と市ボランティアセンターの共催で、会場をサロン風に設定し、作業所が作ったクッキーやコーヒーを楽しみながら、集い・学び・ふれあい・交流の「まちづくりサロン」を開催しました。

武庫川女子大学・巡静一教授の記念講演に統いて、「自分たちのまちは、自分たちでつくり、守り育てる」をコ

ンセプトに、高槻ジャズストリート実行委員会・配食のいきいき会・市ボランティアセンターの3者が事例発表を行って放送されたもの、点字サークル「蓮」によるあきかんのブルタブのリサイクル活動が紹介された市の広報ビデオ、さらに「シルバーアドバイザー北河内地域の会」の、リサイクル用品を使つた訪問交流事業の様子…これらのビデオ3本を、筆記通訳グループ「なんばぼ」が1本に編集し、さらに字幕を挿入して上映されました。

会場には16のNPO団体の活動紹介もあって、約200人の参加者は地域での活動を始めるための新しいヒントをつかんだようでした。

北河内ブロック交流会開催

環境をテーマに
北河内ブロック交流会開催

河北

11月27日（火）、門

真市ボランティアグ
ループ連絡会主催に
よる、北河内各市の
ボランティアグルー

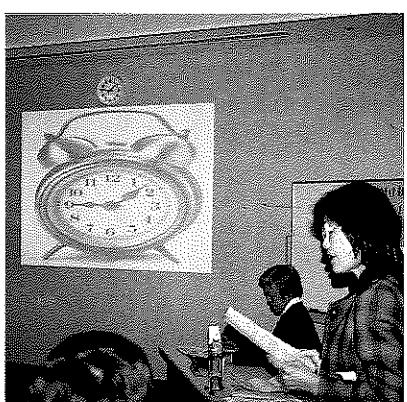
ブ連絡会と門真市ボ
ランティアグループ連絡会の40名が、

互いに交流を深めるための集いを開催しました。

テーマは「身近なところから環境を考える／みんなで目標をうごみゼロ社会！」。冒頭で、朗読グループ「アクション」の皆さんが朗読で参加者に提言。「環境時計」の考え方についての説明がなされ、現在は「きわめて不安」な9時8分…と訴えました。

続いて、ビデオによる3つのボランティアグループの活動紹介。門真市内で、花壇づくりや家庭ごみの減量に取り組む「みどり会」がテレビ取材を受け放送されたもの、点字サークル「蓮」によるあきかんのブルタブのリサイクル活動が紹介された市の広報ビデオ、

休憩をはさんだ後半は、朗読グループ「ゆりかご」が環境に関する絵本を朗読。「水の流れが雨となり、川に流れにたどりつき、そこで水蒸気に



表される環境時計の針が、今年の9時8分より戻っていることを確認したとき、初めてわかるのではないで

しょうか。



環境美化活動を学んだ 河南ブロックの交流会

炭づくりの現場を見せてもらいました。ケナフ入りのクッキ

河南

河南ブロック交流会は、11月19日、河南町ボラ連の担当で

【VサインNo.11】(ボランティアOSAKA／2000年秋号)にも登場した「ささゆりグループ」の活動紹介がメインです。

メンバーは50代の人が多いとのことで、すが、20代の人もいて総勢55名。週1回のゴミ集め、月1回の幹線道路の清掃で地域の美化と環境保全の啓発を行っている他、少なくなったささゆりの自生地を守るため、後継者不足に悩む林業家に協力して、下草刈りなど山の手入れを手伝っています。竹林の荒廃も進んでおり、谷川の大型廃棄物にも悩んでいふとのことでした。

詰評でした。竹炭や
ケナフ炭をお土産にいただき、近づ
飛鳥博物館の見学ののち解散しました。
福祉分野では外回りの仕事が少ない
ので、自然と人との交流はうらやまし
い限りですが、「活動は無理をせず、
楽しく続けることがモットーです」と
「ささゆりグループ」の皆さん。活動
時間を控え目にして、ときには専門家
から植物の生態を教わったりも。お弁
当をみんなで持ち寄つたり、ときには
焼き肉やいもがゆを作つたりするな
ど、「活動の継続」に配慮されている
のも大いに参考になりました。

月29日（土）、泉佐野市では9
森ホール大ホール
とホールロビー・本ワイエにおいてボ
ランティア国際年記念事業を開催しま
した。「やさしさ、いたわり、思いやりの
心」をキーワードに、子どもと保護者
がともに参加できる催しとして、カッ
パ座による人形劇『ありがとうV人形
劇』『笛地蔵』の上演、市内で活動する

泉佐野市で ボランティア国際年記念事業

いました。なかでも、手話・展示の体験コーナーには多くの親子連れが参加。また「ライフケーキなん」のコーナーでは、クッキーなどほとんどの商品が売り切れるほどの人気を集めました。700人を越える入場者があつた今回の催し、人形劇のいろいろな場面で、子どもたちの元気な反応が印象的で、一日となりました。

仕事をするという特徴ある活動もありました。パリアは人それぞれによつて異なりますが、各市町村の取り組み状況から、主に移動と情報面でのパリアが多いようです。何らかの障害を持つ人々には、社会生活に困難が生じる場合がありますが、互いに理解し合い、足りないものの補う活動があればパリアを防いでいるかもしません。不景気まつ只なかの昨今、町の構造のパリアフリー化はなかなか進みませんが、せめて地域の人々の理解と温かい心で、パリアを少しでもなくしていきたいものです。

調査にご協力いただきありがとうございました。今後この結果をもとに、パリアフリーの問題に継続して取り組むことにします。

今年度より新体制となつたバリアフリー部会では、「バリアフリー」とは何だろう」ということから始まりました。建物や道路の段差、駅の階段など、「町のつくり」がバリアとしてよく取り上げられるものの、「生活での障害」となると、あまりに範囲が広がり焦点が定まりませんでした。そこで、各市町村のボランティアによるバリアフリーに関する取り組みについて調査を行いました。43市町村のうち、回答は32。そのうち、市町村内のグループが連携し、何らかの取り組みを行ったのは14(43・8%)ありました。その内容は①福祉マップづくり(42・9%)、②障害に対する理解のための講座(21・4%)、③市民への啓発活動(21・4%)、④行政への要望・提言(14・3%)でした。また、個々のグループの取り組みとしては、外出介助や手話などの活動が多数あり、その中でも商品の品名点字シールの作成、手すり段差解消の大工仕事をするという特徴ある活動もありました。

バリアは人それぞれによって異なりますが、各市町村の取り組み状況から、主に移動と情報面でのバリアが多いようです。何らかの障害を持つ人々には、社会生活に困難が生じる場合がありますが、互いに理解し合い、足りないものを補う活動があればバリアを防いでいるかもしません。不景気まつ只なかの昨今、町の構造のバリアフリー化はなかなか進みませんが、せめて地域の人々の理解と温かい心で、バリアを少しでもなくしていくべきものです。

調査にご協力いただきありがとうございました。今後この結果をもとに、バリアフリーの問題に継続して取り組むことにします。

なにわボランティアフォーラムの分科会で 「会社人から社会人へ」をテーマにパネルディスカッション



2001年ボランティア国際年記念「なにわボランティアフォーラム」が開催されました。主催は、大阪府社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターなども参加する「2001年ボランティアセンター」に、3人のシンポジストによるパネルディスカッション。POやボランティアが担当する「もう一つの公共」についてさまざまな議論がなされました。

午後からは分科会で、このうち第6分科会では「会社人から社会人へ―新しいライフデザインを描いてみませんか―」をテーマに、4人のパネラーによる本音トークがくり広げました。

コーディネーター役の関西電力・絹川正明さんの巧みな司会で、企業の社会貢献やボランティア推進部署の担当者である各パネラーも、日頃感じていること、ぶち当たっている壁、不況下における課題などについて忌憚のない意見を披露。サラリーマンの新しい生き方について、あらためて皆で考え直した一日となりました。

去る12月8日（土）、大阪赤十字会館において

2001年ボランティア国際年記念「なにわボランティアフォーラム」が開催されました。主催は、

大阪府社会福祉協議会ボランティア・市民活動セ

ンターなども参加する「2001年ボランティア

センター」に、3人のシンポジストによるパ

ネルディスカッション。POやボランティアが担当する「もう一つの公共」について

さまざまな議論がなされ

ました。

午後からは分科会で、こ

のうち第6分科会では「会

社人から社会人へ―新しい

ライフデザインを描いてみ

ませんか―」をテーマに、4人のパネラーによる本音

トークがくり広げました。

コーディネーター役の関西

電力・絹川正明さんの巧み

な司会で、企業の社会貢献

やボランティア推進部署の

担当者である各パネラー

も、日頃感じていること、

ぶち当たっている壁、不況

下における課題などについ

て忌憚のない意見を披露。

サラリーマンの新しい生き

方について、あらためて皆

で考え直した一日となりま

した。

去る12月8日（土）、大阪赤十字会館において

2001年ボランティア国際年記念「なにわボランティア

センター」に、3人のシンポジストによるパ

ネルディスカッション。POやボランティアが担当する「もう一つの公共」について

さまざまな議論がなされ

ました。

午後からは分科会で、こ

のうち第6分科会では「会

社人から社会人へ―新しい

ライフデザインを描いてみ

ませんか―」をテーマに、4人のパネラーによる本音

トークがくり広げました。

コーディネーター役の関西

電力・絹川正明さんの巧み

な司会で、企業の社会貢献

やボランティア推進部署の

担当者である各パネラー

も、日頃感じていること、

ぶち当たっている壁、不況

下における課題などについ

て忌憚のない意見を披露。

サラリーマンの新しい生き

方について、あらためて皆

で考え直した一日となりま

した。

情報部「一ナード

ボランティア・ワーキング「かわながの」
来て見て知つて語つて欲しいボランティア

★ボランティア活動団体の紹介
市内のボランティア団体の活動状況を
ポスター展示で紹介します。

★映画『ホーム・スイートホーム』上映会
老人介護、中途障害者がテーマの映画です。

★映画『ホーム・スイートホーム』観賞座談会
会場 河内長野市役所市民サロモン

■交通パリアフリー法と福祉のまちづくり
第11回 東大阪市社会福祉シンポジウム
日時 1月29日(火) 13時30分～16時
会場 東大阪市布施駅前リージョンセンター
「夢広場」多目的ホール

内容 基調講演とパネルディスカッション
定員 140名
問合せ 東大阪市社会福祉協議会
TEL 06(6789)5550
FAX 06(6789)5611

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■安田精神保健近畿講座
～保育ソーシャルワークと子育て支援～

日時 2月23日(土)～24日(日)
会場 安田生命大阪アカデミー(大阪市住之江区)
受講料 9000円

主催と講師先 安田生命社会事業団
TEL 03(3398)67021
FAX 03(3359)07705

■YMCAs学習障害児・者支援プロジェクト
YMCAs自立支援シンポジウム
日時 1月30日(日) 13時～17時
会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)2階
内容 講演とシンポジウム
定員 300名 参加費1000円
問合せ 大阪土佐堀YMCA
TEL 06(6441)0895
mailtosabori@osakavymca.or.jp

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■安田精神保健近畿講座
～保育ソーシャルワークと子育て支援～

日時 2月23日(土)～24日(日)
会場 安田生命大阪アカデミー(大阪市住之江区)
受講料 9000円

主催と講師先 安田生命社会事業団
TEL 03(3398)67021
FAX 03(3359)07705

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

■学習障害(LD)児支援のための
ボランティア養成講座
* 日時 2月16日(土) 13時30分～16時30分
①ボランティアとは
②学習障害の基本理解
③学習障害児への援助方法

会場 大阪YMCA会館
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

定員 50名(先着順)
参加費 2000円
問合せと申込み 大阪YMCAウルネスセンター
TEL 06(6441)0895
FAX 06(6225)9843

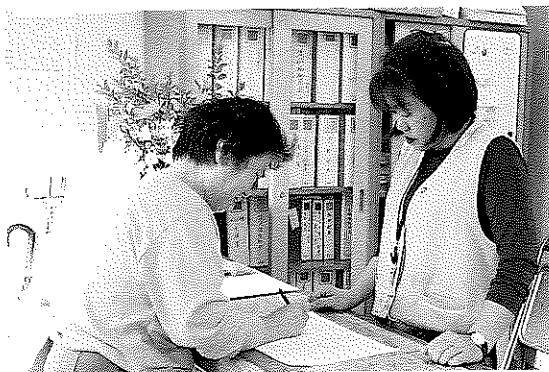
Hello! ボランティアセンター

阪南市ボランティアセンター

阪南市尾崎町35-1
TEL 0724-71-5678
FAX 0724-71-7900

モットーは「身近なサービス提供」

阪南市ボランティアセンターの自慢は、数多くの登録ボランティアを組織している点。現在、475名の方たちがボランティアとして個人登録していますが、その数は府内でもトップクラス正在いいものです。その人たちが12の



ボランティアの相談を受け付ける中尾さん

校区に分かれ、校区福祉委員会と連携しながら小地域ネットワーク活動などに取り組んでいます。

具体的には高齢者の配食サービスや在宅サービス、障害者作業所の支援活動などですが、各校区ごとに運営委員やチーフコーディネーターを配置し、その人たちのリーダーシップのもと、地域に密着した活動が展開されています。

また、ボランティアセンターでは毎月1回、「ボランティアサロン」を開催。これはボランティア間の情報交換や連絡調整を目的としたものですが、研修会や相談会なども随時開催し、全体のスキルアップを図ることにも積極的。「サロンは毎回、多數のボランティアさんの参加で賑わいますが、7月・8月は、ボランティアに関する知識や経験豊かな講師を招いて、ボランティアスクールやボランティア体験プログラムを実施しました。このときは夏休みの中・高生や、登録者以外の人にも広く呼びかけ、多くの参加をいただきました」と、ボランティアコーディネーターの中尾真弓さん。サロンの企画運営は、各校区の代表者が毎月、当番制で担当。このように地域住民による自主的な取り組みが活発に行われているのも、ここの大変な特色のひとつです。

昭和58年に設立された阪南市ボランティアセンター。当初は5つの地区での活動でしたが、いまではもちろん市内全域をカバー。小地域ネットワークとの協働による「地域の人々の期待に応える身近なサービス提供」をモットーにした活動に、今後とも注目していきたいと思います。

茨木市ボランティアセンター

茨木市駅前4-7-55
茨木市福祉文化会館（オークシアター）1階
TEL 0726-27-0033
FAX 0726-27-0434

毎月の電話訪問「モシモシコール」

茨木市ボランティアセンターの場所は阪急「茨木市駅」から歩いて5分。駅前のメイン通り、中央通り沿いにあり、市役所のすぐ前なので初めての人でもわかりやすく、誰でも気軽に訪ねることができます。

ユニークな活動として挙げられるのが、ひとり暮らしの高齢者を対象にした電話訪問「モシモシコール」。同センターに登録しているうちの約40名のボランティアさんがローターショーンを組んで、電話を希望される約1000名のお年寄りに安否確認の電話をかけています。「これまでの実績は、月平均1800件以上。訪問活動を行っている所は多いですが、電話でのフォローをしているのはめずらしいんじゃないでしょうか」と話されるのは、同センターのボランティアコーディネーター石橋勉さん。

また、一昨年の8月からはリフト付き自動車の貸出事業も始めました。これは、ただ自動車を貸出するだけでなく、運転手も登録ボランティアのなかから紹介してくれるというサービス。「最近、定年退職をして登録される男性の方も増えているので、こうした取り組みが実現できるようになりました。ひと月に30件ぐらいのお申し込みがあり、市民のみなさんに喜んで利用していただいている」。

そして取材の日は、同センターのホームページを制作している最中でした。これに携わっているのは、広報紙などで市民から募集した7人の「ホームページ制作ボランティア」の皆さん。利用する市民の視点を大切にし、本当に欲しい情報を提供することが必要との観点から、敢えて専門家に制作を依頼することは避けました。皆さん、とても和気あいあいと、しかし、しっかりと意見を交換しながらパソコンを操作ていきます。「このように、あらゆる場面で市民が参加し、地域との連携を図りながらボランティア活動をサポートしていくことが、これから展望です」とも石橋さんは話してくださいました。



ホームページ制作にあたるボランティアの皆さん

ボランティア・市民活動保険のごあんない

取扱保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

		ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア保険				各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険	
補償内容		ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。				ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。	
補償金額	損害部分	本ボランティアのケガ	Bプラン	Cプラン（天災担保）	本参加者のケガ	I型（宿泊なし）	II型（宿泊あり）
		死亡	2302.1万円	死亡	843.3万円	死亡	
補償金額	賠償部分	後遺障害	69~2302.1万円	後遺障害	25~843.3万円	500万円	
		入院（1日あたり）	8,700円	入院（1日あたり）	5,900円	15~500万円	
見死亡金	掛金	通院（1日あたり）	5,600円	通院（1日あたり）	3,800円	入院（1日あたり）	
		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額				3,000円	
見死亡金	賠償部分	対人	対人、対物共通 最高 4億円	対人、対物共通 最高 3.5億円	通院（1日あたり）	2,000円	
		対物					
見死亡金	掛金	死亡	30万円	死亡	30万円	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
		ボランティア1名 年間（中途加入でも同じ）					
加入できる人や対象となる活動	保険有効期間	500円		2,000円			
		・無償であること（交通費、食事代など除く） ・自助活動ではないこと ・活動のための会議や、往復途上も含む			ボランティア団体や市民団体が主催する行事 (スポーツ活動や自助活動も含む)		
加入できる人や対象となる活動	保険有効期間	毎年4月1日から翌年3月31日まで (中途加入の場合は受付日の翌日から)			行事期間中 (開催1週間前までに受付が必要)		

		各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険				移送サービス活動に 移送中事故傷害保険	
補償内容		ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。				移送サービス事業の活動中に、車輌に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。	
補償金額	損害部分	本参加者のケガ	Aプラン	Bプラン	本参加者のケガ	I型（車輌特定）	II型（車輌不特定）
		死亡	202万円	死亡	500万円	死亡	
見死亡金	掛金	後遺障害	6~202万円	後遺障害	15~500万円	2,260万円	
		入院（1日あたり）	3,000円	入院（1日あたり）	3,000円	後遺障害 79.8~2,660万円	
見死亡金	賠償部分	通院（1日あたり）	2,000円	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額		後遺障害 57.7~1,923万円	
		対人	1名あたり 1事故あたり	1億円 2億円	入院（1日あたり）	3,000円	
見死亡金	賠償部分	対物		500万円	通院（1日あたり）	2,000円	
		死本人の			手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額		
見死亡金	掛金	Aプラン		Bプラン			
		4,900円		6,300円			
加入できる人や対象となる活動	保険有効期間	営利目的ではないが利用者から実費を越える報酬を得ている活動、団体			2,000円 (車定員1名あたり)	2,000円 (記名利用者1名あたり)	
		毎年4月1日から翌年3月31日まで (中途加入者は翌々月1日~)			移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者		
加入できる人や対象となる活動	保険有効期間				毎年4月1日から翌年3月31日まで (中途加入者は翌々月1日~)		

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともにお申し込みください



三井住友海上火災保険株式会社